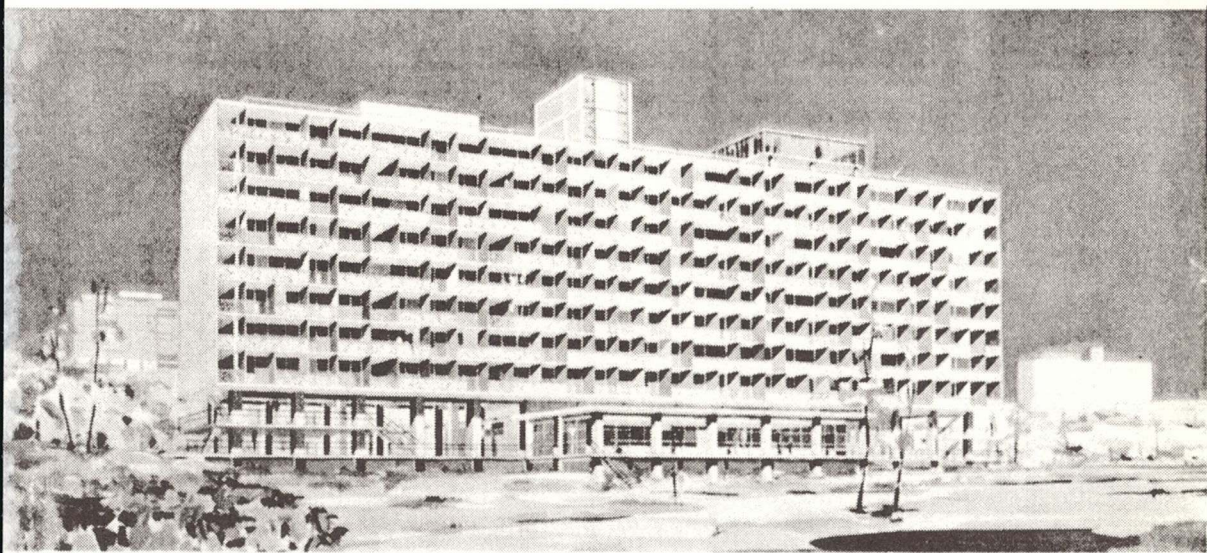


建築と社会

青年建築家特集号



芦屋高層都市

June

1955

36

日本建築協会

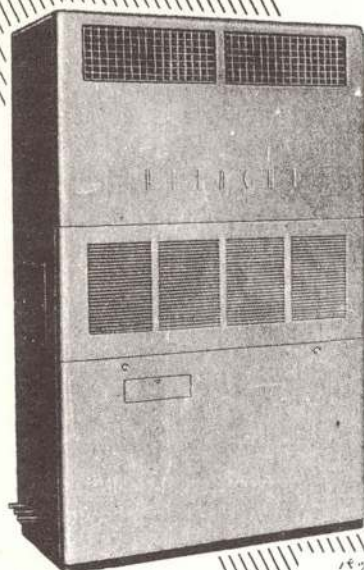
The Architectural Association of Japan

冷房・除湿・換気が簡単に出来ます



パッケージ型

日立エアコンディショナー



パッケージ型
エアコンディショナー

保健衛生用に

銀行、事務室、ホテル、病院、レストラン、理容室に

工業用に

製菓、製菓、精密工業、研究所、試験所、通信施設に

日立パッケージ型エアコンディショナーはキャビネット内に、冷凍機、冷却器、送風機、その他一式を納めた空気調和機でありまして、室内の冷房、除湿、清浄化及び換気を自動的にを行い、所要の条件に保持する事が出来ます。

又ダリト施工により1台で2部屋以上を、或は別室に置いて各室を冷房する等種々応用が出来ます。

夏は冷房、換気と共に湿気を除き、冬は加熱器を取付け温風暖房が出来ます。

日立製作所

TRADE MARK



DOG

メンブレン式 防水

の補強材料は30年の経厂を誇る

ドック印で!!

- | | |
|------|---------------------|
| ドック印 | アスファルトルーフィング |
| // | アスファルトフェルト |
| // | キンマレアタイト (高級瀝青金麻布) |
| // | ヘツシヤンファブリック (瀝青黄麻布) |
| // | コツトシファブリック (瀝青綿布) |
| // | 白麻ファブリック (瀝青苧麻布) |
| // | ゲオンタイト (伸縮目地板) |

地下鉄道、高架鉄道の如き激しい震動箇所でも弊社製品は完璧の防水効果を發揮して居ります

型録・見本・仕様書

御報呈上



日本工業規格表示許可工場

株式会社 工英社

大阪市西成区橋通9丁目24番地 電話 天下茶屋@4628番

会 告

会員増加について御協力お願い

本会も創立以来本年で38年の歴史を経ましたが、この間機関誌「建築と社会」の外各種建築関係図書の発刊、住宅その他の展覧会、各種講習会、講演会、映画会、見学会などの開催、また機に応じての建議陳情など建築に関する各般の活動を続けて、建築を通じて広く社会に貢献するという本会の目的達成のため努めて参りました。今後なお一層適切有意義な良い事業を行うよう格段の努力を励みたい念願であります。然しそのためには更に充分な実力涵養が必要であります。実力の基礎の第一は「数の力」の結集であり、多数の会員の御協力御後援によつて会の活動を愈々光輝あらしめることができると存じます。明後昭和32年には創立40年を迎えますが、この時を機して会員の数を倍加致したく存じております。下記の通り、協会、会員相互利便のため、会員グループ組織の決定もみました。何卒全会員こそつて未入会者の勧誘にお勉め下さいまして、会員増加に御協力賜りますようお願い申し上げます。

会勢委員長 藤 木 正 一

日本建築協会会員グループ規程

はしがき 本グループ規程は、昨年来会勢委員会において、数度に亘り検討の上規程となつたもので、何卒各職場では、本グループを結成されると共に会員倍加運動に御協力下さるようお願い申し上げます。

目 的 日本建築協会会員グループは職場内会員相互の和親協力を図ると共に協会との連絡を密にして、会費納入の容易化、健全な協会運営の助長に協力することを目的とする。

1. 同一の職場で5名以上の会員のおられるところで、協会に職場名、会員名及び世話人名を届出れば、本支部を通じて職場連絡の1単位として取扱う。
2. グループは次のことを行う。
 - (イ) 会費の一括徴収
 - (ロ) 会誌、刊行物の配本
 - (ハ) 新入会者の勧誘並手続の斡旋
 - (ニ) 会員動向の協会への連絡
 - (ホ) 協会事業を職場内への速報連絡
 - (ヘ) その他上記の趣旨に適する事項
3. グループに属する会員は、グループ代表として協会との連絡に当る世話人若干名を選出する。世話人の任務あるいは選出方法、任期などはそのグループで決める。
4. グループに対する特典、または報償は次による。
 - (イ) 会費は毎月分納できる。
 - (ロ) 毎月の徴収会費の10%を手数料として払戻す。
 - (ハ) 新入会者5名以上獲得されれば、入会金の50%を払戻す。
 - (ニ) 会員倍加運動期間中は新入会者の会費の20%を手数料として払戻す。

建築基準法及関係法規一覧表 (附図解図表) 再刊予告

建築基準法は之に基く命令、条令、其他多くの関係法令があり一般設計、計画に当りこれ等関係法規を知悉するのに非常に手数を要し誠に煩雑である。

本会はそれ等の煩しさを省き一見して目的の関係条文を見出すため本委員会が調査研究の結果首題の一覧表(索引表)を作成去る26年発行したが好評を博し忽ち売切れとなつた。今回各方面の要望に応へ再検討補筆し更に近く政令の改正等を考慮し再版する様準備を進めている。本書は初版より更に多くの図解と図表を増頁し利用者の便を図っている何卒御期待されん事を。

出版委員長 奥 島 正 一

名誉正会員 安井 武君の御逝去



本会名誉正会員・元副会長安井武雄君、昭和30年5月24日病のため逝去されたことは、まことに痛惜の極みであります。

君は東京大学建築学科卒業後、満鉄を経て片岡事務所に入り、大正13年独立、安井建築事務所開設、爾来独得の多くの作品を残されています。君資性温厚にして沈黙考誠に静かで親しみ深く信望厚い仁でありました。本会には創立そうそうから在籍され波江名誉会員等と共に種々斯界のため尽されました。大正15年都市計画委員や昭和7年教化委員長として努められました。また昭和11年副会長の重席に選ばれ、無言のうちによく片岡会長を助け、斯界に貢献すると共に本会の隆盛に寄与された功績は大なるものがあります。

戦後、定款改正と共に顧問に挙げられ本年4月名誉会員に推薦、今後共斯界のため、また本会指導にまつものが多かったのであります。

偶々昨年来病床の人となられ、ただひたすら御回復を祈っていましたが、遂に再起ならず、71才を一期として不帰の客となられたことは、かえすがえすも残念であり痛恨にたえません。

5月26日に片岡前会長十年の追悼祭を行い、たまたま27日その門下第一人者であつた君の葬儀に遭い感慨無量なものがあります。

ここに君在りし日の肖像と略歴を掲げ、哀悼の誠を捧げ、つつしんで御冥福をお祈りいたします。

因に27日午後2時より今橋カトリック教会で営まれた葬儀は、在阪建築関係者堂に溢れ非常な盛儀であつたのは、君の最後が一層飾られ今更ながら故人の徳が偲ばれる。本会よりは竹腰会長が参列弔詞を朗読在りし日の君の功績を讃えた。

略 歴

1. 明治17年2月25日 千葉県佐倉市に生る
1. 明治43年3月 東京帝国大学工科大学建築科卒業
1. 同 年4月 南満洲鉄道株式会社入社
1. 大正8年 同社を辞し片岡安建築事務所へ入所
1. 大正9年 外遊
1. 大正13年4月 片岡事務所を辞し、大阪・東京において建築事務所を自営
1. 昭和20年12月 野村建設工業KK社長就任
1. 昭和21年12月 同社を辞し安井建設KK社長就任
1. 昭和26年1月 KK安井建築設計事務所代表取締役就任

建築事務所自営中設計監理をなしたる主なる建物

大阪倶楽部、大阪汎愛小学校、野村証券大阪支店、野村銀行京都支店、高麗橋・京都・東京日本橋各野村ビル、三和銀行名古屋支店、東京味の素ビル、大阪ガスビル、御影野村邸、満鉄東京支社、東洋レイヨン徳島並びに帝人三原工場、富士電機川崎・豊田・吹上・四日市各工場、大和紡績金沢、福井工場、石原産業各工場、京都淀競馬場、エビス土地建物、東邦レーヨン大阪事務所並びに大垣工場、大和紡本社ビル、日綿実業本社、山陽百貨店、兵庫相互銀行、落綿会館、その他略

建築と社會

6

青年建築家讀

麗わし、青年建築家！

五月の空に輝く太陽よ

あらゆる青年の中の青年よ

君は無限の可能性を持つている

困難は君だけのものではない

たゞ困る困るというものが困るのだ

ぐつと引いた一線の両端に

消された過去と始まる未来がある

10人の選ばれた戦士よ

友軍と共に さあ次の戦いに立て！

CONTENTS for JUNE, 1955

第1期青年建築家

富家 宏泰	祇園 富美代・旅館大文字家
坂田 美郎	岐阜県立岐阜高等学校
今西 茂雄	千草グリル・尼崎文化会館
三田 一男	古賀の井旅館・他
渡辺 祐己	相生住宅
森下 裕良	帝人KK名古屋工場講堂
平生 舜一	丸善石油肥後橋給油所・他
長谷川元耶 吉田 隆一	N社甲子園寮・他
松村 慶三	倉敷レイヨン西条病院
稲葉 藏明	羽衣展示住宅・芦屋Y氏邸
片山 光生	関西労災病院
宮武 保義	ロビテル(熱海病院ホテル案)
小林 章	論説：新しい世代の為に
小林 盛太	論説：新現実主義への試み
近藤 正志	感想：懐疑
太田伝一郎	電通会館

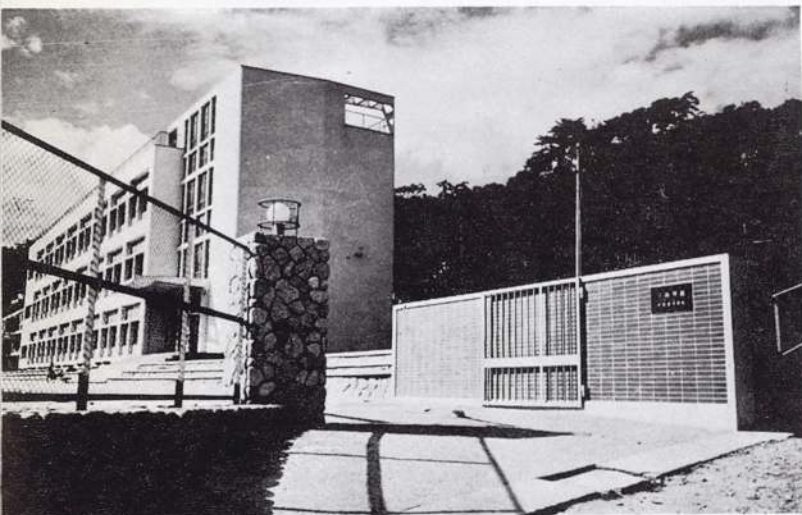
(昭和29年6月号より再録)

第2期青年建築家特集

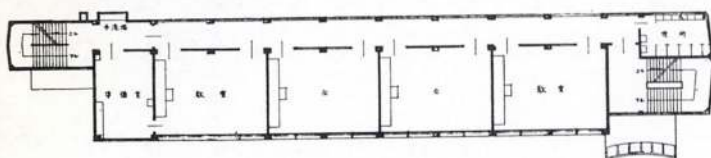
鈴木 英夫	甲南高校校舎・甲友会館	6
梅田 孝治	伊丹基地士官クラブ・他	8
浜田 和夫	神戸石屋川独身寮・他	10
富田 三樹夫	与多呂本店・外6点	12
葉袋 公明	府中市庁舎・F邸・他	14
佐久間 宏	O氏邸	16
高橋 則夫	神戸朝日ビル地下商店街・他	18
楠田 清	石原産業四日市工場 塩浜共同住宅	20
柴木 一成	姫路発電所	22
加藤 啓治	大沢商会名古屋支店	23
近畿大学工高卒業設計コンクール入選案		24
建築の眼		25
紫煙室		27
前会長片岡博士追悼会と五月午餐会		28
昭和30年度委員		37
会報		38



甲南高等学校校舎



位 置 神戸市東灘区本山町岡本
 竣 工 昭和29年3月
 敷地面積 1,974.75坪
 床 面 積 1階 166.26坪 屋 階 17.81坪
 2階 166.26坪
 3階 166.26坪 合計 516.59坪
 構 造 鉄筋コンクリート構造
 外 装 腰 人造石洗出し
 壁 リシン掻落シ
 南窓下部分、1.5寸角 釉掛タイル貼り
 屋根 アスファルト防水 モルタル押へ目地切仕上
 内 装 床、階段、廊下 テラゾー研出真鍮目地
 教室 ナラフローリング貼
 巾木 テラゾー研出 及 松ペイント仕上
 腰 モルタル、ペイント仕上
 壁、天井 プラスター仕上
 其 の 他 電気、衛生、給排水、浄化槽設備
 暖房用地下ピット
 将来監理部門、特別教室等、増築の予定



推薦のことば

東 畑 謙 三

若い人に二つある。早くから上手な図面を画きまともり過ぎた計画をして、そのまま年をとっていく人がある。私は枝振りの良い盆栽をみている観がする。又早くからセンスがあつてギョチない図面を書いていてもそれが素直である場合には年がふえるにしたがつて段々と大きくなって行く人がある。私は規則正しく植林した若苗をみている観がする。私はこの方の青年の方が好きである。鈴木君は学業を終えて三年目、私の多くの協力者の中の一人である。彼の母校の仕事であつたので大体一人でやつてくれた。早くから油絵を画こうとするな、デッサンを勉強するつもりでやれといつたのみで余り口出がましい事はいわなかった。素直さがこじれてはいいかぬと思つたからだ。出来た作品は彼の性格が出ている様に思う。文字通り角がとれていない所がある様にも思われるが、段々成長して大樹となれば自然に風雨をうけて自づと角もとれて枝振りも良くなると信じ、あえて推薦する次第です。雑誌にのつたが故に急に大きくなつたつもりでこけでも生え出したらもう成長は止つたものと思われたい。

(推薦者 東畑建築事務所所長)

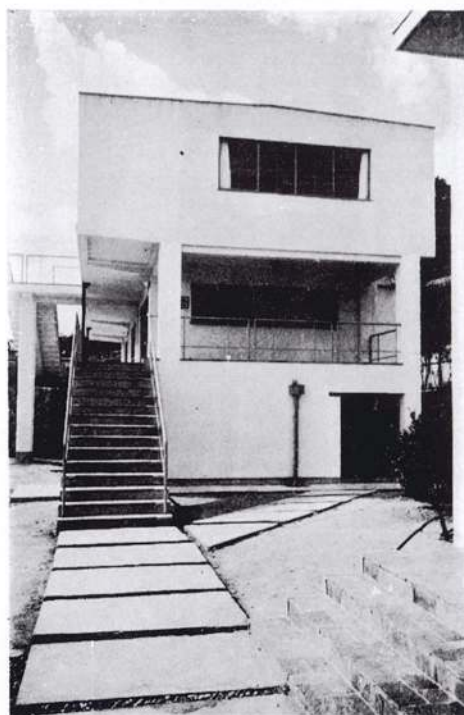
鈴木 英 夫

略 歴

昭和5年1月生
 昭和27年3月 大阪大学工学部構
 築工学科卒業
 同 年4月 東畑建築事務所入
 社、現在に至る

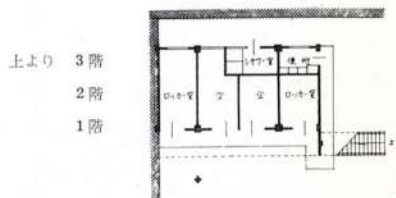
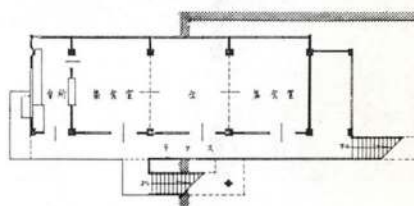
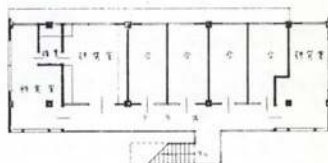


外 装 腰 モルタル刷毛引
 壁 リミン掻落し
 建具 スチール・サツシユ及び木製サ
 ツシユ
 窓下 フレキシブルシート貼ビニール
 ペイント仕上
 屋根 モルタル防水 モルタル押へ目
 地切仕上
 内 装 床 アスファルト・タイル貼
 巾 木 松ペイント仕上
 腰 モルタル、ビニールペイント仕上
 壁天井 プラスター仕上
 其の他 電気、衛生、給排水設備



甲 南 高 等 学 校 甲 友 会 館

位 置 神戸市東灘区本山町岡本
 竣 工 昭和29年8月
 敷 地 (校舎と同一敷地内)
 床面積 1階 18.00坪 3階 48.00坪
 2階 41.25坪 合計107.25坪
 他に屋外階段 2ヶ
 用 途 学生の課外文化活動及びス
 ポーツの為の集会室、研究
 室、及びロッカー室
 構 造 鉄筋コンクリート構造



寸 感

鈴 木 英 夫

私達建築家が社会から要望される事は、先づ第一に建築の技術的な解決である。雨、風、地震などの自然の脅威から安全である事から始つて、快適で効率的の高く経済的な生活が営め、更に美しくもある建築を作る事である。

次に社会生活が営まれる場である建築を、単なるバラバラの建築空間としてではなく、その社会的性格を掘り下げて社会的有機体に建築を総合して行かねばならない仕事と与えられる。具体的には都市計画、あるいは住宅政策など、その範囲は所謂建築学の域を越えて広い。

これらの問題を処理する為には、建築家は先づ技術、手段を提供し各種の忠言を為し得る技術家でなければならぬ。又自己の属している社会を向上発展させるべく、社会的な提唱をする事も建築家の大きなつとめである。近頃の様には建築の社会的問題が真剣に検討される様になつたのは、技術的な問題にのみ終始して来た段階より一歩前進したものと喜んでよい事であろう。

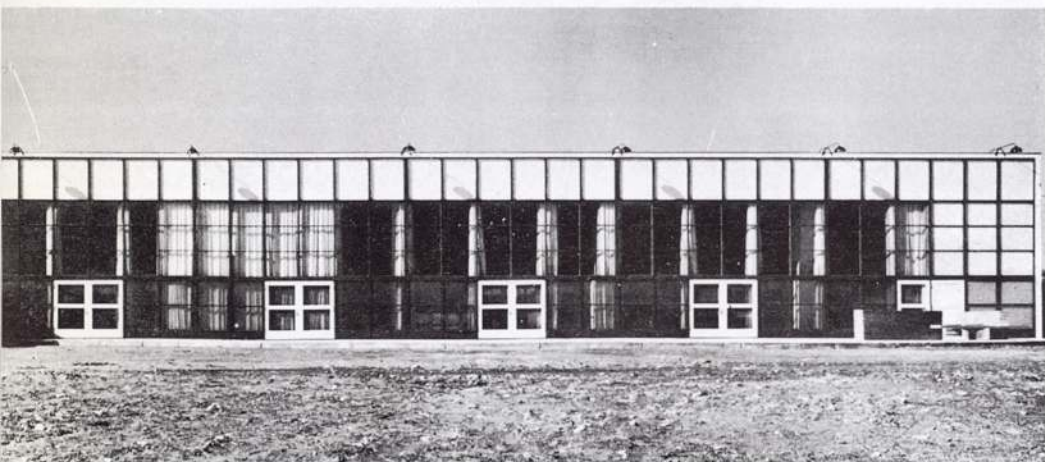
しかし、これだけではない。建築とは単なる建築物でも、只の社会生活の殻でも、又綺麗な美術工業品でもない。まだ其処に何かが在る。「建築は、住む為の機械である」の一言は建築の結論ではなく序言である。ここから建築が始まるのである。

こんな事は今更私達が述べる迄もなく建築に従事する者の常識として当然の事ばかりであろうが、当り前の事は、いざその時となると案外見落され易いものである。

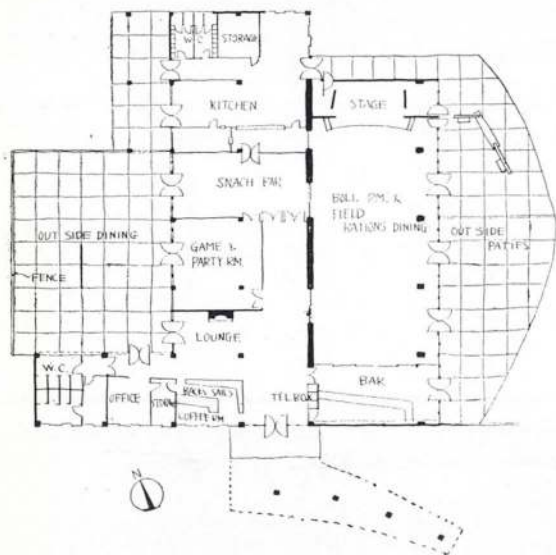
私達建築家は、この見落し易い当り前の事共をしつかりと見つめて、謙虚な心から、立上つた青写真の怪物や、イデオロギーの幽霊や、巨大な床の間の置物の様な建物でない、誠実な生命の美しさ溢れる建築を創つて行きたい。



正面外観



側面外観



伊丹基地士官クラブ

工期	6ヶ月間 (29年)
工事費	建築 78,800 円/坪 設備その他 34,900 円/坪
規模	鉄筋コンクリート造平家建 建坪 445 坪

伊丹飛行場北隣に米軍士官用施設として新築したもので空港という明るい感じを出しました。



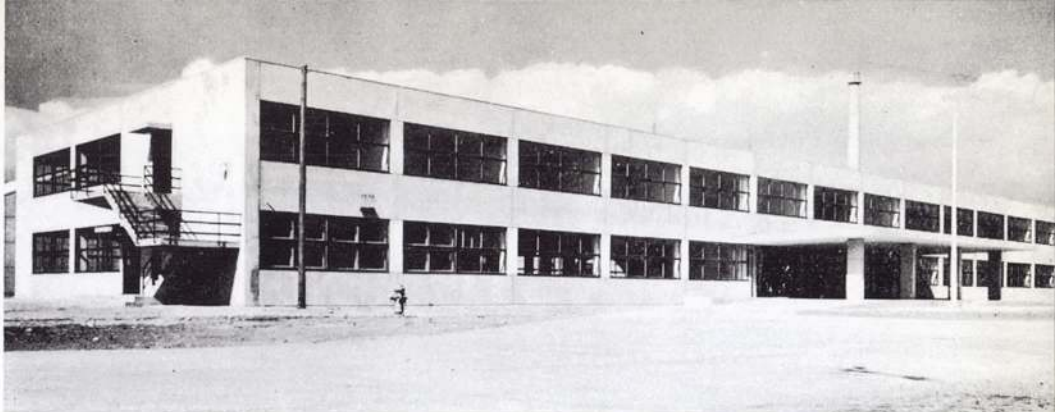
梅田 孝治



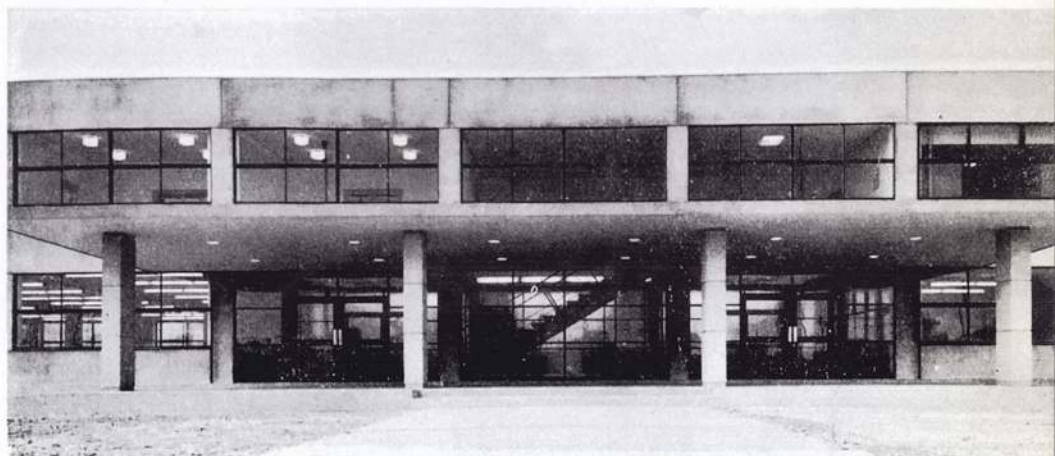
昭和18年9月 神戸高等工業学校卒
昭和18年10月 大蔵省営繕管財局勤務
昭和20年11月 戦災復興院勤務
昭和24年10月 近畿地方建設局営繕部勤務
昭和27年9月 営繕部建築課第二設計係長

梅田 孝治 の 作品

東面外観



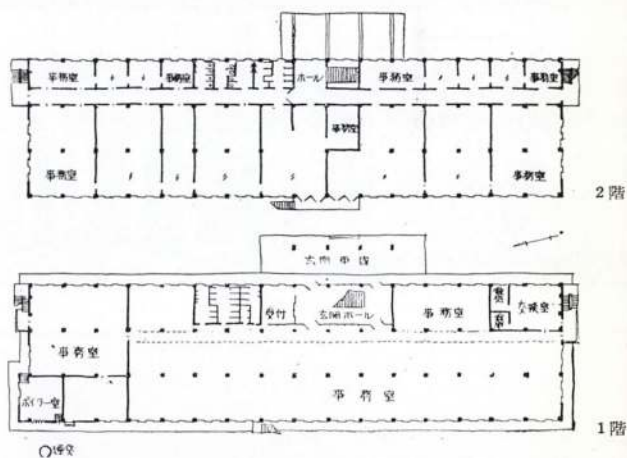
玄関詳細



神戸兵站補給廠尼崎分廠本館

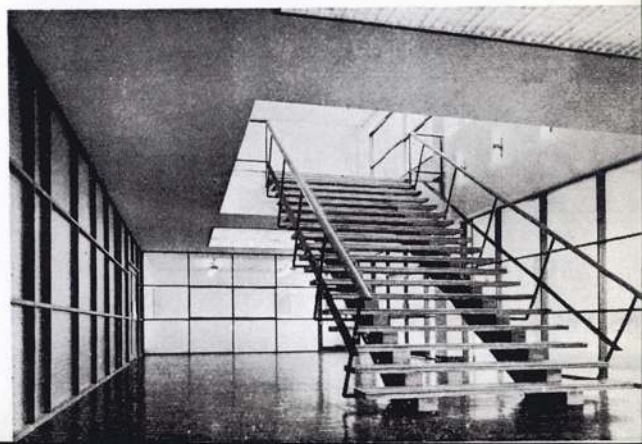
工期 7ヶ月間 (29年)
 工事費 建築 54,000 円/坪
 設備その他 21,700 円/坪
 規模 鉄筋コンクリート造二階建 延 1,300 坪

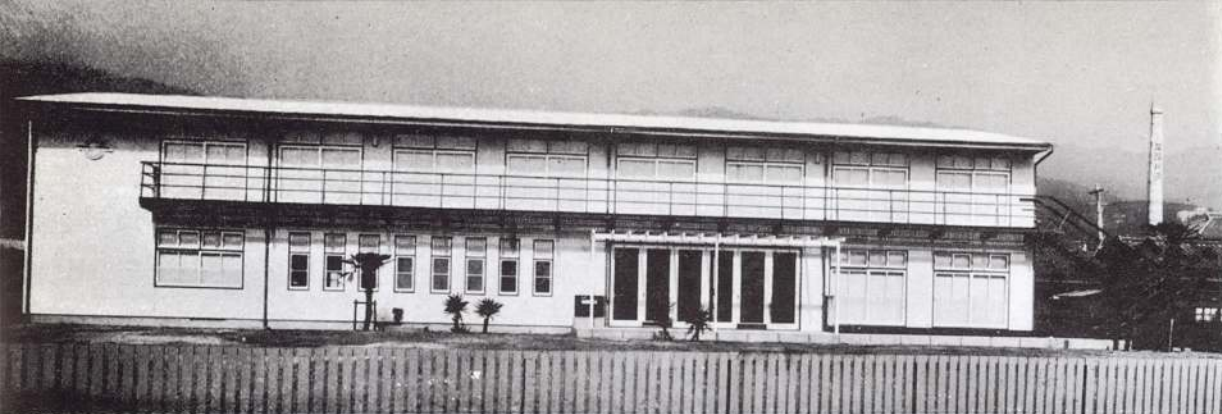
尼崎市の元住友プロペラ工場内に建てられたポリユームのある倉庫群の中心としてその管理事務所を新築したものです。



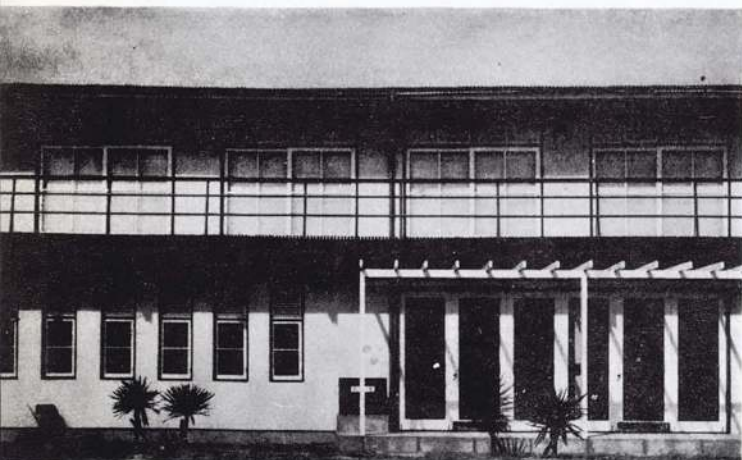
推薦者のことば 角田 栄

梅田君は近畿地方建設局営繕部建築課第二設計係長として当局官庁営繕工事の第一線に活躍して以来約2年半、建築設計のプランに、立面に、又詳細に、明解簡素に割り切る彼独特の手法をもって、実施設計及び部下指導に従事して来た。その間の作品にはすべて虚飾を排して物そのものの純粋な機能と美を追求したものが多く、官庁営繕の一つの在り方を代表するものと思われるので、ここに推薦する次第である。(推薦者 近畿地方建設局営繕部建築課長)



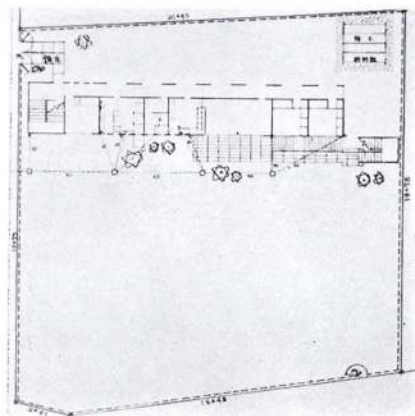


神戸石屋川独身寮 電々公社



神戸市灘区記田町

- ・ 昭和28年10月完成
- ・ 木造二階建 延90坪
- ・ 外装 ラスモルタル塗、着色セメント汁吹付仕上
(ライトブルー)
- ・ 屋根 波型スレート葺 2.5寸勾配
- ・ 1階テラス モルタル塗 目仕切 パーゴラ木製
- ・ 2階バルコン 床 桧 1.3寸×1.8寸 質の子張
オイルステーン仕上
- ・ 避難階段 手摺 バイブ 笠木 堅木製 ラツカ
一塗仕上 鉄骨製 階段 鰯蓋板



- ・ 昭和2年8月1日生れ、満27才、鹿児島県出身
- ・ 昭和24年 鹿児島工業専門学校（現、国立鹿児島大学工学部）建築科卒業
- ・ 卒業と同時に逓信省大阪逓信局管轄課に勤務
- ・ 現在 日本電信電話公社近畿電気通信局建築部員



浜田和夫

青年建築家を推薦のことは

赤井 弘雄

電々公社の建築については斯界において色々御批判はあると思われますが、一応当方の企業性により内蔵する電気通信機器によってかなり構造的な制約のもとに特異な面があり、一般的なビルとの差位を認めて頂きたいと思えます。従いまして当方の技術者の大半は電気通信網に乗る通話電流の生産工場建物の設計者としての限度において働く面が多いのでありますが、設計対象物の中には一般ビル・アパート等と大差ない設計もあることとてその方面においては青年作家が夢寝に求めた設計の片瞬を生かす機会も又あるわけですね。その発露の機会を数多く与えてやりたいと祈念します。今回推薦する浜田君も部員中個性的な面の強い作家として、且つ部内経歴も中位に属し、将来を嘱目されておりますので、昨年度の太田君に引続き推薦する次第です。作品としては未完成ですが、大方諸君の御批判をどう次第です。

(推薦者 近畿電気通信局建築部保全課長)

(本誌3月号の 作品作風に所載の電々公社甲子園アパートも同氏の作)



和田山施設区

- 兵庫県朝来郡和田山町
- 昭和29年7月完成
- 木造平家建 30坪 (10M×10M)
- 外装 堅羽目張 (杉5分) オイルペイント
塗 (クリーム)

- 屋根 方形 亜鉛鍍鉄板瓦葺きオイルペ
イント塗仕上 (ダークグレイ)
- 換気筒: 厚鉄板製 (円筒状ガラリ)
- 煙突 赤煉瓦半枚積 凹目地

公衆電話サービスセンター

- 昭和30年4月改造工事完成
- これは大阪駅構内(中央口)公衆電話のサー
ビス改善のため、電話器数を増設すること
になり、従来のボックス式からカウンター
式に改造したもの
- 内部仕上
吸音壁 腰: 木製リブ (絵1寸角) と吸音
フレキシブルボードを交互に配
置、オイルペイント塗仕上

- 壁: ヘツシヤンクロス貼
- 天井 吸音サンライツ貼、内部にグラ
スウールを載せる
- 床 ラバリウム
- カーテン アセテート服地 (赤)
- 正面 枠 濃紺、掲示板枠はベイルブ
ルー
- 出入口 イエロー (内側は赤)



“ひな”の思い出

浜田和夫

改まつて何か述べることは、私なんか本当はとても恥づかしいのですが、然し自分の考えを堂々と述べることは大事なことだと思いますので、建築家として6年、今までに忘れられないことを、ふりかえってみることにします。

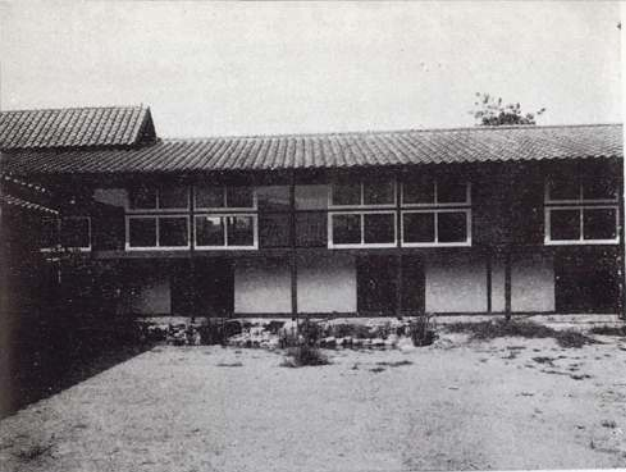
昭和24年就職してはじめて現場に出された時、先づ私は建築業界というものの封建的なフニキに全くマゴマゴしました。それから、その荒つばさに驚倒しました。

1年経つて漸く簡単なデテールを書かされる様になつて、現場の経験が早速、役に立ちましたが、とにかく夢中に1/20のデテールを書いていました。そして2年位までは、恥づかしいながら、デテールというものは、一番あとに考えていいものだと思つていました。私は大変な誤りをしていたのです。練りに練つたスツキリしたデテールによつて始めて美しいプランとエレベーションが生れることを知つた時、私は無上の喜びを覚え、新しい眼で建築を見る様になつた様です。それから所謂、通信建築というものの様式のマンネリズムに大きな疑問を抱き、種々の研究会の席上などで第三者にも度々指摘されて、色々考えさせられたのは4年経つた頃でした。「メカニズム」とか「フランクシヨナリズム」について友達と議論し、何らかの結論を得ようと思つてあせりました。機能的であり、然もその中に若々しい夢が流れていなければならない。同時に一貫した美しいトーンを表現するには、色彩計画によつてそれを助けることが出来ることに気がつきました。

現在、私は設計の仕事から離れていますが、最近インターナショナルな傾向になりつつあり、種々のテーマを投げかけている所謂「日本のデザイン」について、矢張り人並に日本の古典建築のもつ近代的、民族的要素というものに、新しい眼を向けたいと思つて暇があると古いおきを通ることにしています。

最後に、この間何かの雑誌に次の様な文章が載つていたのが眼に止まりましたので書きとめておきます。

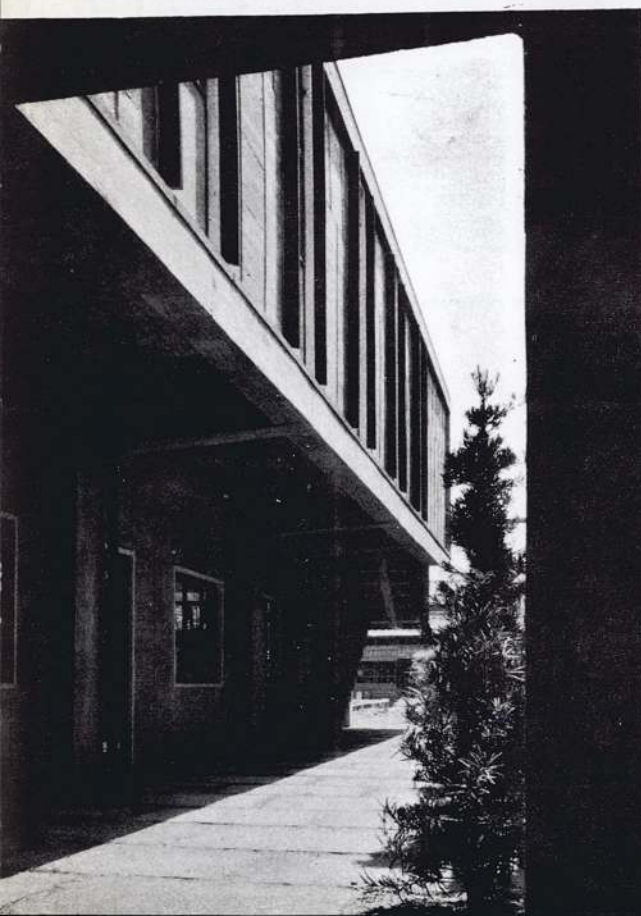
「のびのびと計画するというセンスを若い建築家の卵たちから奪っていくものは何であろうか、こんな重くしい空気をうち破つていく力こそ僕達は期待したいのだ」



1



2



3



7

推薦者の言葉

徳永正三

設計という技は誰にでもすぐに出来るものとは考えられない。自分の心の中にある一つのイメージを大切に育てていながら、具体的な建物の中に表現する為に、涙ぐましい様な素晴らしい努力の上に積み重ねられていく様だ。

富田君を私が推薦するのは、おかしいのだが同君は天分に恵まれている上に、その努力もおしまない人であると同時に生活の中に自己の体験を積み重ねている事を信じて、敢えて推薦する事にした。

その他に建築を通じて Industrial design にも非常に興味を持っていて、遠からずこの面でも独自の境地を拓くものと思います。

いい作品—もしそういう事がいえるとして—はそう沢山出来る様には思えないが、富田君は常日頃から一年一作主義で行き度いとも漏らしている事をも併記して御紹介します。

(推薦者 三座建築事務所所長)



富田 三樹夫

大正8年10月13日生

昭和16年12月25日 早稲田大学

専門部工科建築学科卒

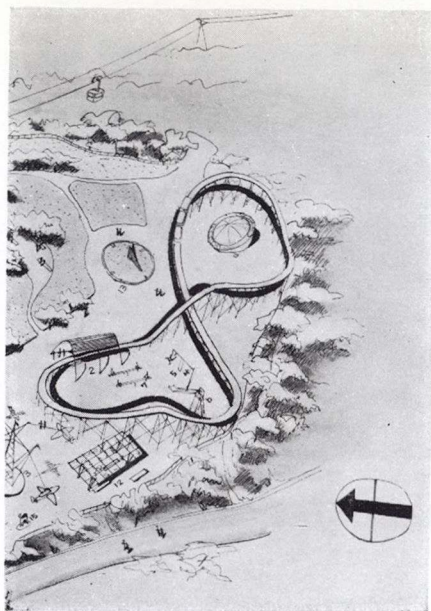
昭和17年1月16日 置塩建築事

務所勤務

現在 三座建築事務所所員

富田三樹夫の作品

12



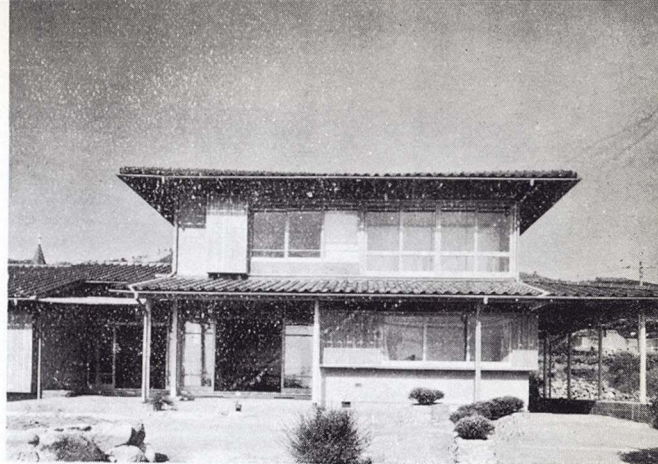
雑記 富田三樹夫

建築が空間を構成するかぎり、その機能と共に表現の内容—視覚上の一つの性格の付与—が重大な課題であり、そしてこれの善悪で建築のそれを決定づけるキーポイントであると極言しても過言ではないと思います。

作家が一つの課題と取組む時、機能面と並行して、この表現の主題の把握に全力を捧げ、又このためにこそ、日々の蓄積を要求されております。唯こうして把握された主題は、全体的乃至は形式上のもので、これの実際の表現、主題を破綻なく、完全に言いあらわす技法の裏付の上に立たなければなりません。私達若年建築家の要求されるものは、精神を通して表現される技法の熟達であり、技法を楽しむのも我々にゆるされた特権ではないかと思われま。

1. 朝日羽衣園 大阪府浜寺 昭和28年7月
2. 朝日緑風荘 名古屋市妙見町 昭和28年12月
3. 今治商工会館 愛媛県今治市 昭和25年4月
4. 藤原邸 神戸市上筒井 昭和29年4月
5. 与多呂本店 大阪市渡辺橋 昭和23年12月
6. ある事務所 大阪市中之島 昭和29年12月
7. 松山市城山ロープウェイ及び
児童遊園地計画 昭和30年3月

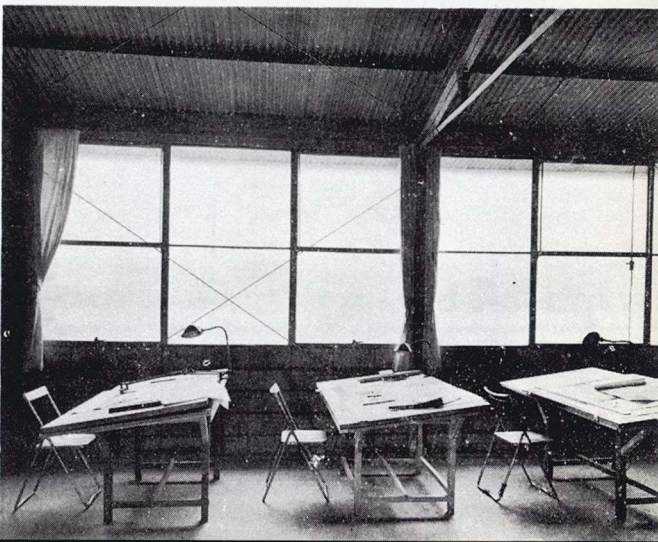
4

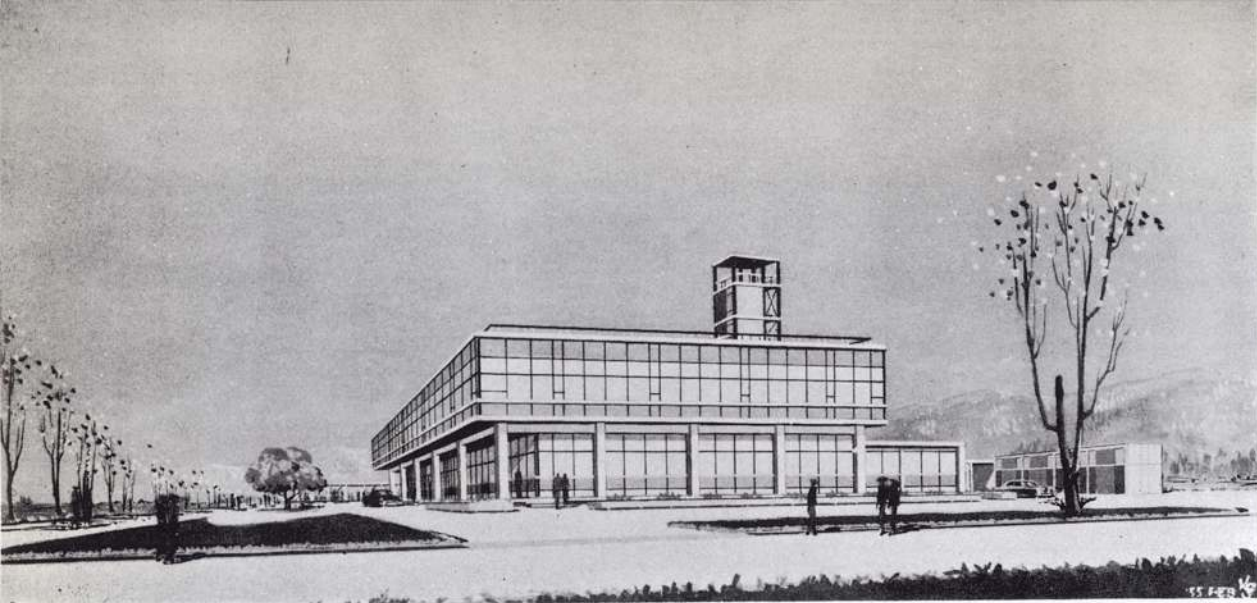


5



6





パース

府中市庁舎

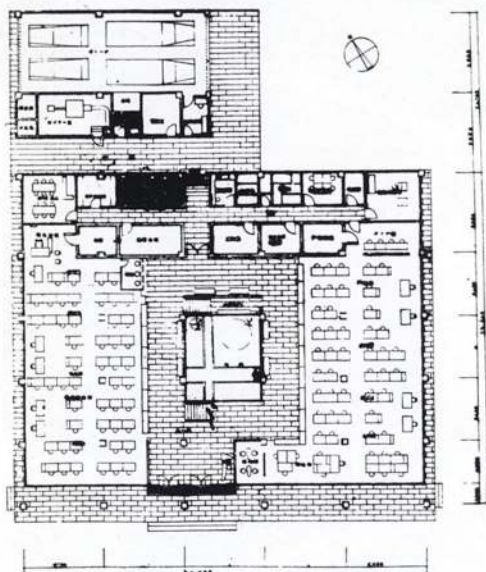
(指名競技設計当選案)

構造：R.C. 2階建，一部平家ブロック造

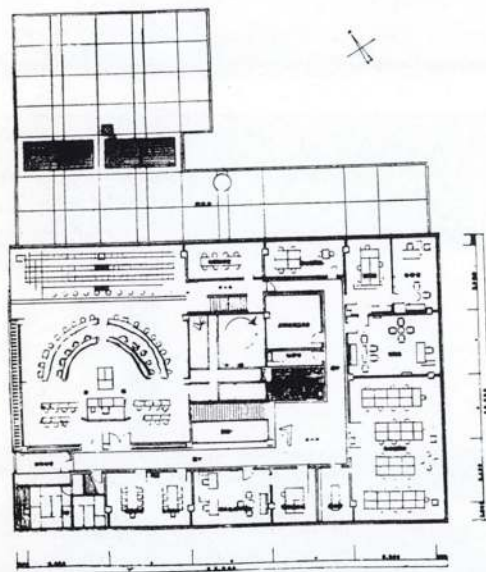
面積：延面積 580.79坪

竣工：1955年11月の予定

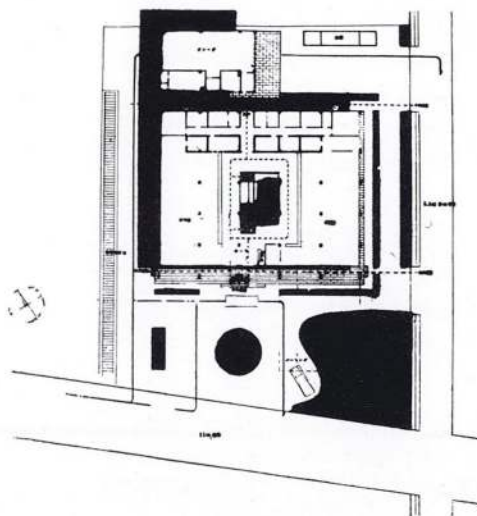
これは1955年2月，指名競技設計が行われ当選したものであり，実施設計において殆んど変更の必要がなかった。



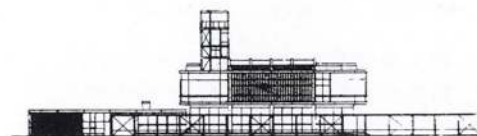
1 階平面図



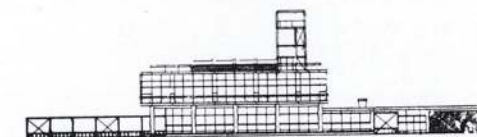
2 階平面図



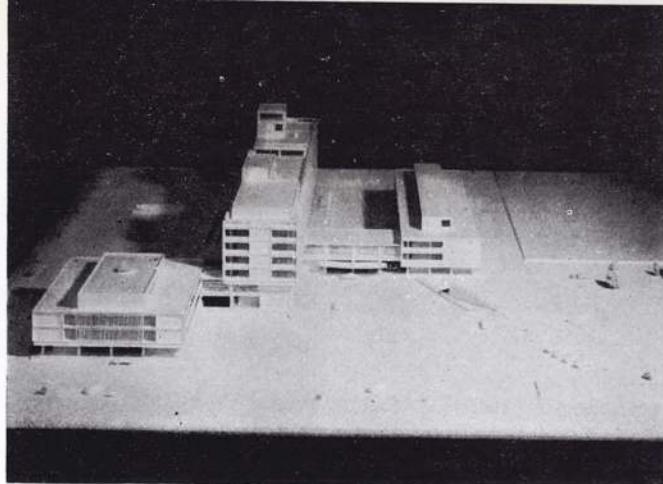
配置図



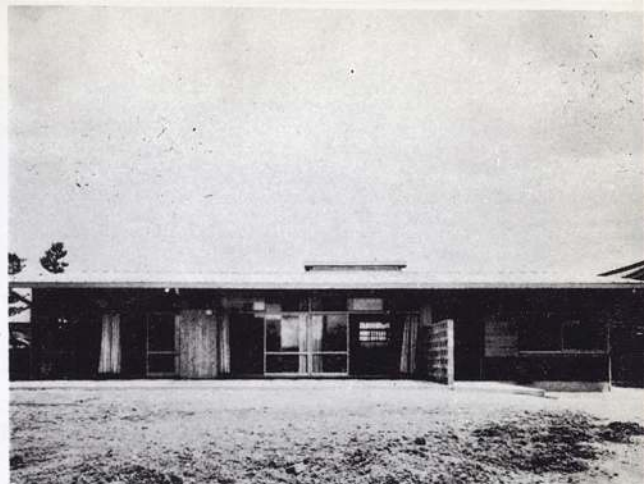
西立面図



東立面図



構造：R.C. 6階及び3階建，地下1階
延面積：9,869.425坪，竣工：1956年1月予定



木造平家建，屋根：アルミニウム コイルシート葺
外壁：松オイルステイン仕上
延面積：57坪 竣工：1954年4月

広島県庁舎・議事堂

F邸

「一つの出発点」

— F夫人との対話 —

薬袋公明

……今申上げた事が失礼な事だとは思いません。私はこれから御一緒に新しいお住まいについて考えてゆかなければならぬのです。私はただ製図技術と青写真だけをj提供するためにこうしてお話しているのではないのです。例えば……医者と患者の関係についてお考えになつて頂けば良くお判りになるのではないかと思います。医者は患者から一応自覚症状を聞いた上で診察を進めてゆき結論を出して治療にとりかかります。この場合、医者の手と目の動きを患者と患者という立場とか特別な関係を取のぞいて考えたとしたら確かに大変失礼な振舞いになつてまいります。若し私が一介の訪問客として先程申上げた様にお持ちになつている家具や、台所・納戸・便所等を見せて頂くとしたら、これはおつしやる通り確かに失礼な事だろうと思います。けれども今申上げた医者と患者との関係……、いわばそれに良く似た関係がF家と私との間に既に持たれている事をお判りになつて頂き度いのです。先程から色々とお建てになるお住まいについて考えていらつしやる事、そして私に要求されていること等をお伺いしました。今度は私から色々お伺いする事があるのです。その為には先づ私がこの家の生活の中に入つてゆく事が必要だと思ふのです。その上ではじめて私に求められている問題が果して必要を充たし得るものであるかどうかを考える事も出来ますし、気まぐれを取のぞいた本当に必要を充つことの出来る答案を用意する事が出来るのではないかと思います。医者と患者との間で大切な事は「治そう、治ろう」とする二つの意志の働きとその底にあるヒューマンテイの接触だと思ふます。施主と建築家の間にもこれと全く同じ関係を成立させてゆかなければならないと私は考えているのです。別に人より変つたものや、私の才能の記念碑を創ろうとは思つておりません。理解と協力の記念碑を作ろうと思つて居るのです。時には苦いお茶を飲んで頂く事があるかも知れませんが……それが必要なことであるならば……。

……よく判りました本当に認識不足でした。どうぞごゆっくり見て頂きましょう。そして今年から私共の家族の中にお入りになつて考えて頂き度いと思ひます。

実は本当の建築のお仕事をされておられる方を全然今迄知らなかつたものですから、大変失礼な事を申上げて申しわけなく思ひます。では納戸からでも……見て頂きましょうか………家には「タンス」がとても沢山あるんですよ………。

………こういう出発からF邸は出来上つたのです。私は時折世間話をするためにF夫人を尋ねてゆきます。

あるエピソード

浦辺鎮太郎

ミナイ君は自分の中に建築の王座を持つておりそれを何物によつても譲らない人である。「天職」とはこのように時に使う言葉だと思ふ。このF邸でも坦々とした道を歩んだとは考えられないのだが果して次のようなエピソードがあつた。君はF夫人と初対面で既に風雲急を告げる状態となつた。筋書のみを辿れば「住宅は生活が分らなければ設計出来るものではない。持物を見せて下さい」と云う我々としては真当な要求に対して、敵を知らないクライアント夫人は「失礼な！」と言うことになつたのだそう。その時のミナイ君の言が実に美事であつた。「奥さん、あなたは医者に見て貰う時に身体を拝見と言われて失礼だと怒りますか？」。これで頼む人、頼まれる人は意気投合して暗雲が晴れた。王座を持たない人にはやれない芸当だし、やつたら失敗するに決つて居る。この意気込みで声援を送りたい今後の作品に期待も寄せたい。

関係した主な作品

サナトリウム三題（東光園、須磨浦荘、星丘分院） — 新建築 1953年10月号 —
高槻市立桃園小学校
静岡県県会館 — 建築文化1955年2月号 —
F邸
広島県庁舎議事堂 — 建築文化1955年2月号 —
笠岡市庁舎
府中市庁舎

略歴 1926年12月3日生 28才

1951年3月 早大理工学部建築学科卒業
1951年4月 日建設計工務KK入社設計部員として今日に至る。

ミナイ 公明

関係した主な Desk Plan
岡山県庁舎指名競技設計応募案
伊丹市庁舎指名競技設計応募案
門司中央文化会館 二等入選案

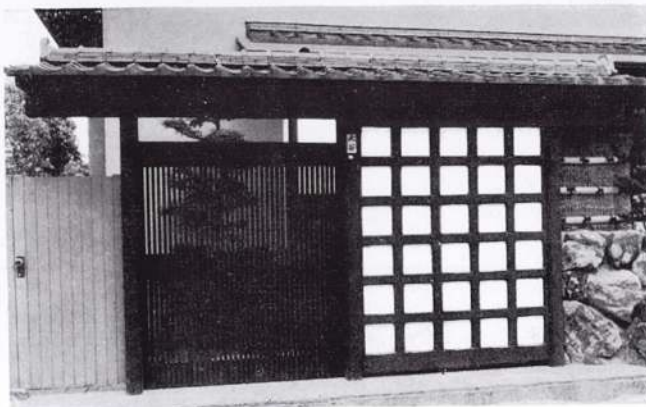




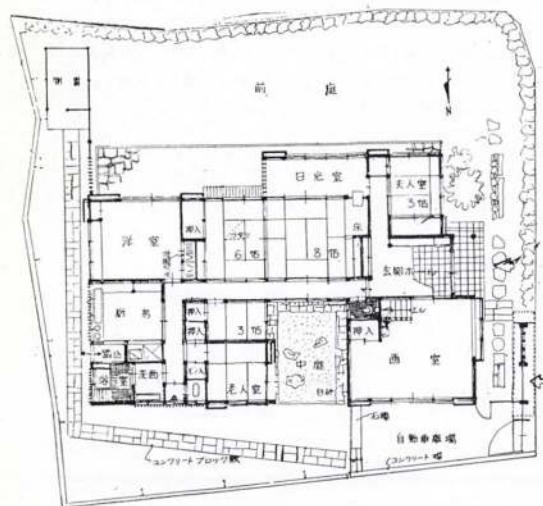
1



2

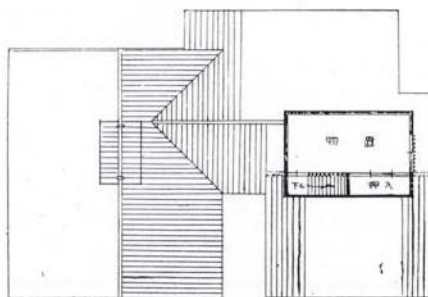


3



1階平面・配置図

〇 氏 邸



2階平面図

所在地	神戸市 岡本
設計施工	大成建設KK 大阪支店
敷地面積	136.4坪
1階面積	45.125坪
2階面積	6.0坪



佐久間 宏
大正14年7月生

略 歴
昭和22年芝浦工業専門学校卒業
大成建設設計部に入社
現在大阪支店勤務。

すいせんのことば

笹 川 季 男

日本の建築家は兎角若いあいだに有名になる。四十、五十になつて地位と名声が得られると、判を押す数はふえるが、建築設計の情熱はうすらいで不勉強な生活がはじめられるのが普通である。しかし若い知識と、経験をもつて創造の要素とするこの部門においては、四十歳をこえたときによく人生の道に入りその頃から確固とした建築が出来はじめると私は信じている。青年建築家の新しい思潮は、その人の将来の良き基盤にはなるので、それが年齢とともに発展を阻止される所謂立身出世主義的環境は出来るだけ自省する必要があると思う。いま私が紹介する若い建築家が現在のアカデミー的な基本勉強をして将来地に足のついた設計をし始める時が来たら楽しみだと思つてゐる。自分を生かせる設計が出来るときが来た時に、若いときの創造の夢の発展と、君の年齢のわりにませた創作とを、ふりかへつてみる時と心の余裕がおとずれることを祈る。

(すいせん著 大成建設KK大阪支店設計部)



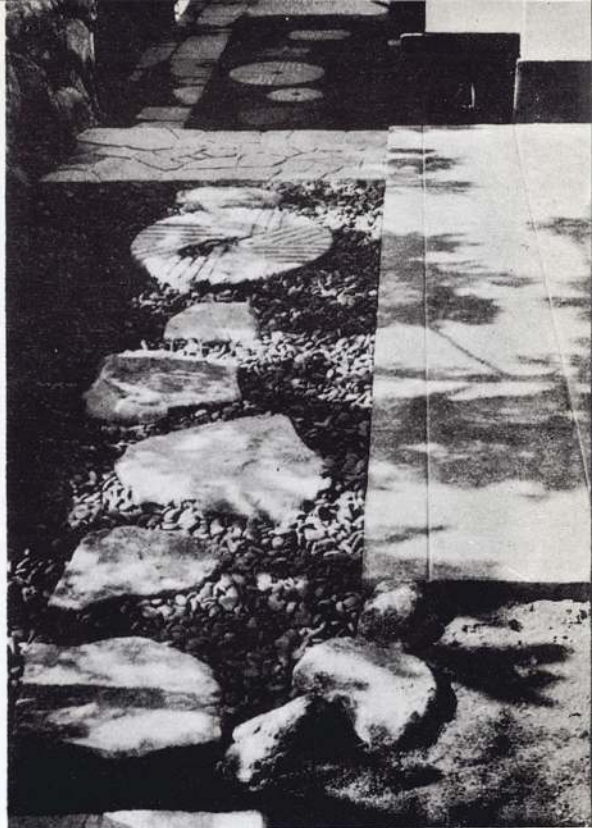
4



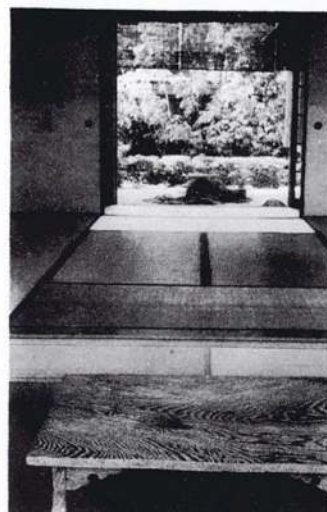
5

- 1 正面（西側）外観
- 2 同上
- 3 門 べにがら入オイルステインの木部と漆喰（コリケン仕上）の白とで構成
- 4 和室
- 5 夫人室（三帖半）
- 6 玄関から門
- 7 日光室より和室を通して中庭を

- みる
- 8 中庭から和室を見る。
- 9 画室 杉べにがら入オイルステインの木部と漆喰天井一部 薩摩葺貼り襖染布貼
- 10 玄関 木部は杉べにがら入オイルステイン仕上、壁じゆらく



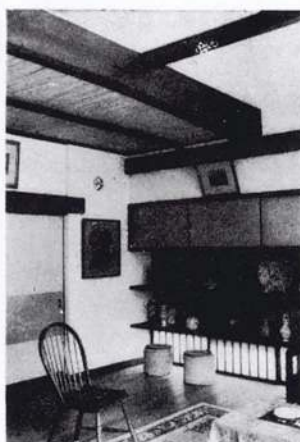
6



7



8



9



10

住居と庭

佐久間 宏

住居が、その住居のもつ雰囲気構成し、そこから「生活そのもの」にプラスする、あるものを醸成してゆくためには、その住居と庭（自然）とのつながりを考えない訳にはゆかない。これはいつの場合でもそうだと思うのであるが、この場合、住まれるO氏が、多忙なその仕事の外に、うちでは絵をかく生活をいとされる人であるということによつて、その様な、住居と庭との触れ合いの問題が、特に一つの課題となり、住居の特徴に大きな影響を与えることになった。

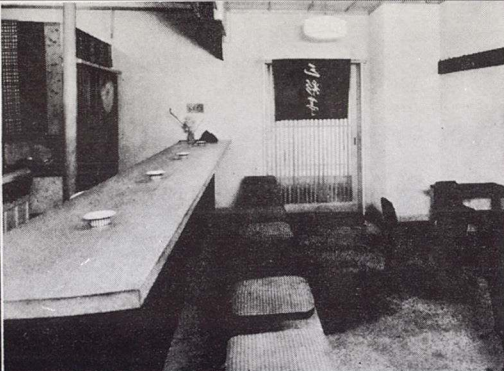
O氏の画風や、O氏の御家族の生活の性格から、庭のもつ性質は、日本的なものがえられた。前の庭（苔庭）という中庭（石庭）は、特に床を低くつくられた日光室と、廊下側の開口部から、家の中心につながり、其処である交響を起している。

画室のひかりは、北側の六甲の山々の空からきて、障子にやわらげられて画布に落ちる。画室の採光は画室の北側を大きく開け、紙障子を通ってくる光によつた。朝の創作が多いという理由は、うつりやすい光線避ける意味で東側を壁にした。画風と画室、ということもまた一つの課題であつた。これ等については、依頼主と設計者のあいだにたしかめられた、あるエッセンスに対し、謙虚に、注意深く、近づこうとした。この住宅の場合、目立つて新しい住居構成というものを、とくに求めるということをしなかつたが、依頼主との間に、絶えず、詳細の図面までが、ひろげられることが、私に「建築」へのアプローチの問題への反省と、そしてそれへの未来の希望を与えていたのであつた。

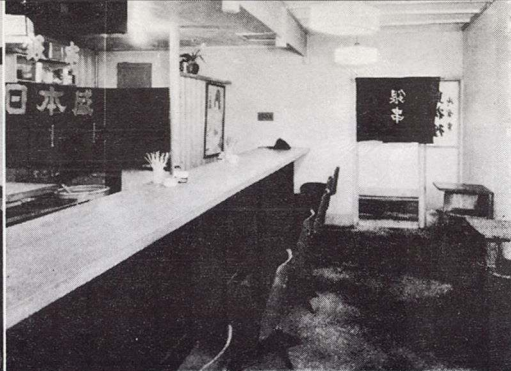
O氏邸が出来上つてから、ほぼ一年を経た。「庭の苔もすっかりついてきたし、一年目にもう一度、家を見直しに来ないか」とO氏より話があつた。設計中デザインについていつも助力を与えていただいた笹川氏と、一夕、反省の機会を得にゆくことになっている。



バー・サンボア



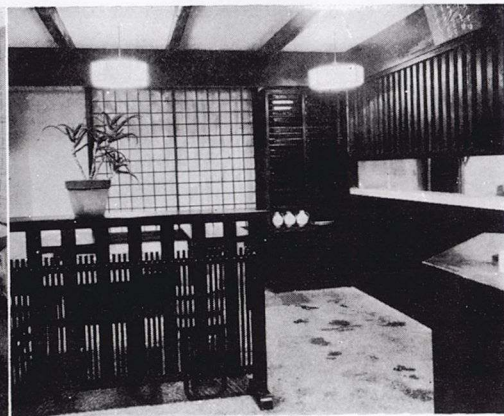
酒亭・三彩亭



焼鳥・銀串



甘党・あしべ

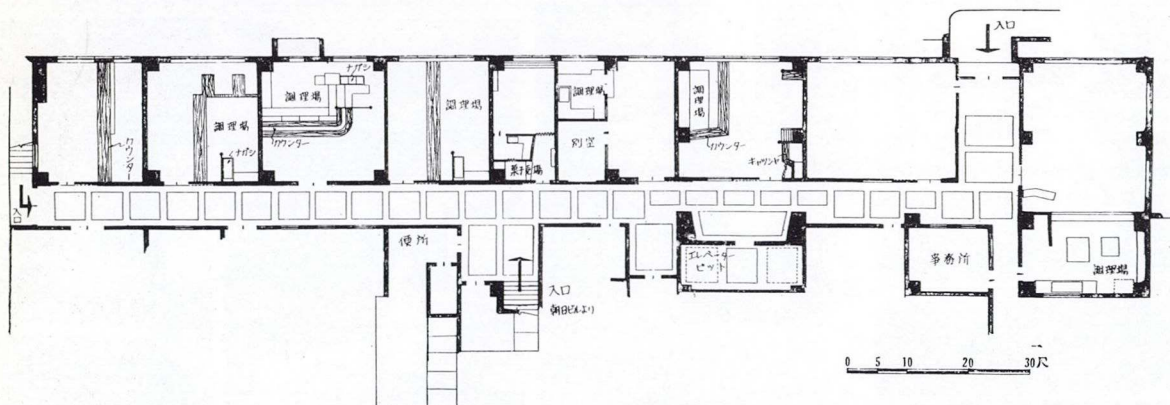


そばや・一茶亭

神戸朝日ビル地下商店街

(あさひ小路)

神戸市生田区浪花町の元証券取引所建物（鉄骨鉄筋コンクリート造地下1階地上6階）で、戦後連合軍に接収せられ、病院として使用されていたものを、接収解除により朝日ビルとして新発足した地下の部分で、当時は地下室の各附属施設として使用されていたスペースを食堂街に改装したもので、昭和28年12月に開店したものです。



バー・サンボア	酒亭・三彩亭	すし福喜鮎	やきとり銀	茶席あしべ	中華料理飛竜	とんかつ喜久川	うなぎ家	そば一茶亭
---------	--------	-------	-------	-------	--------	---------	------	-------



高橋 則夫

昭和4年2月19日生

昭和23年3月 大阪市立都島工業専門学校建築科卒業
昭和23年5月 株式会社竹中工務店入社
昭和23年7月 〃 設計部勤務
現在に至る

設計担当の主なるもの

神戸朝日ビル地下商店街
住友信託銀行売布寮
宝塚映画劇場

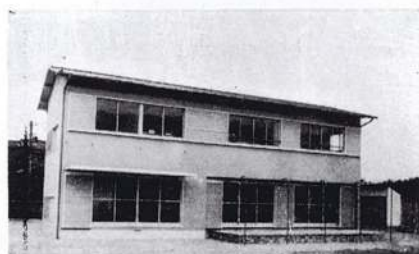
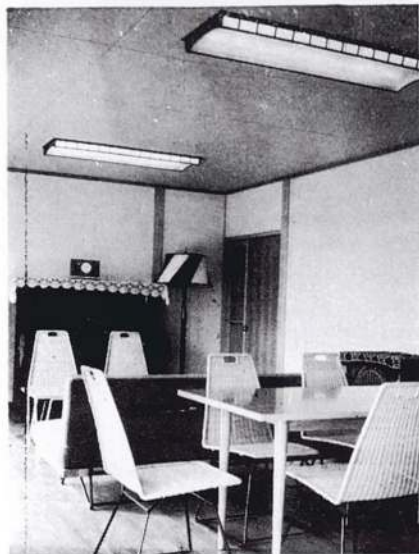
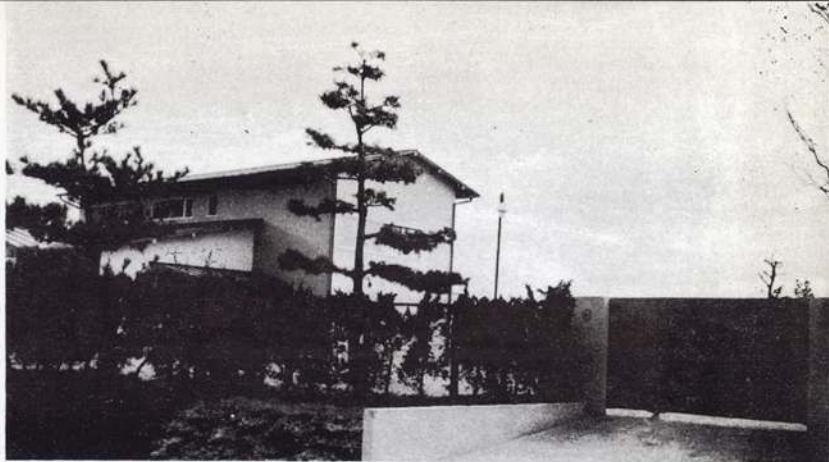
推薦のことば

岩本 博行

未完の魅力という言葉があるが、これはより以上の完成の魅力を想像せしめるもののみ使われる言葉で、そういう想像を許さない未完は未熟に終るばかりである。

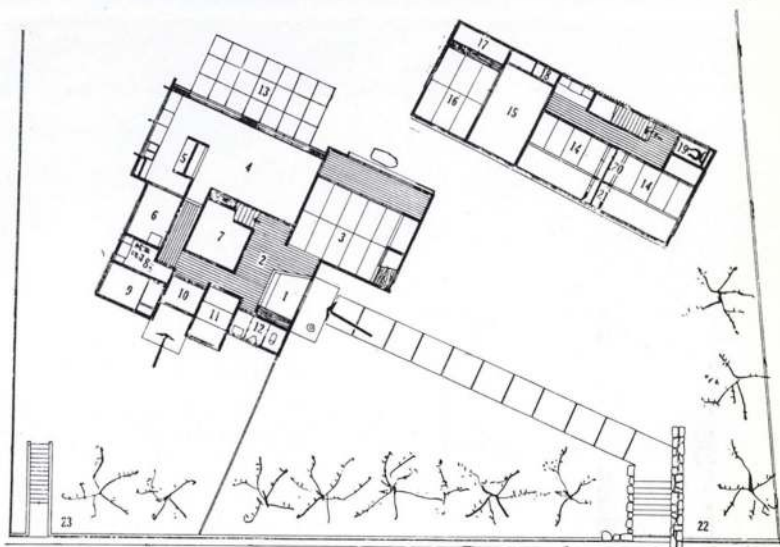
完成された魅力というものは絶対的にはあり得ないが、完成への魅力を想像せしめる作品、あるいは作者というものは生命の躍動を感じさせるものがある。

より偉大な作者が、より偉大に何かを感じさせる可能性は素晴らしい。又若い作者が精進のうちに感じさせるより良いものへの発展的な魅力も、又頼母しく良いものである。高橋君も又、可能性をもち、未完から完成への道をたどる巡礼の一人である。



1 階

2 階



- 1階 1. 玄関 2. ホール 3. 和室10帖 4. 居間 5. リビングキッチン 6. 作業室
8. 脱衣洗面所 9. 浴室 10. サービスアード 11. 女中室 12. 便所 13. テレス
2階 14. 子供室 15. 寝室 16. 和室6帖 17. 押入 18. 洋服ダンス 19. 便所 20. 木棚
21. 洋服ダンス 22. 正門 23. 勝手口

桂原企業株式会社千里山社宅

大阪府下千里山住宅地内の南斜面をもつ北側道路の五百余坪の敷地に新築された会社社宅で、延56坪、木造2階建て、昭和29年3月に着工、同年10月上旬に完成したものです。

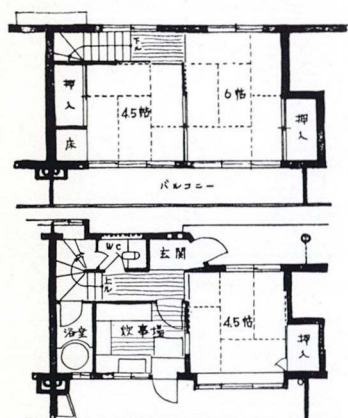
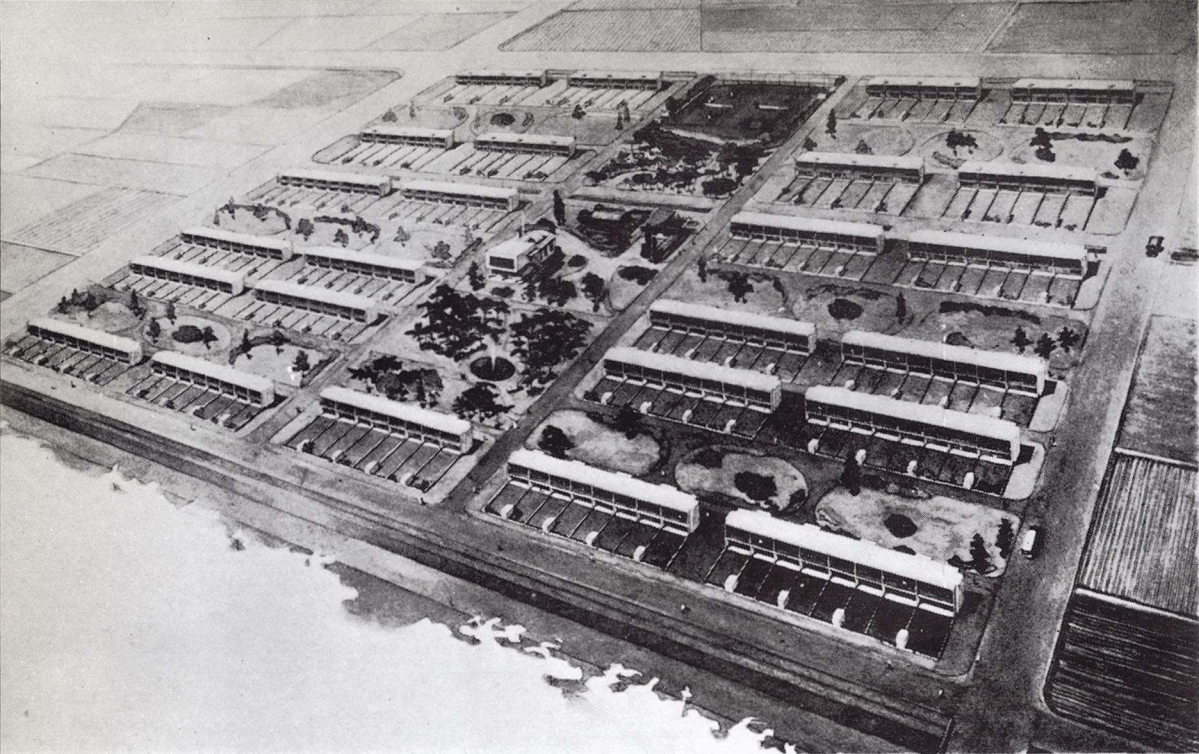
設計者としてのことは

高橋 則 夫

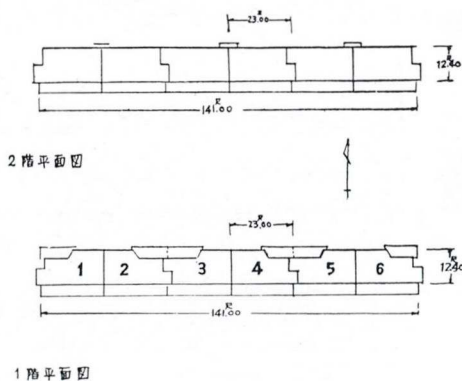
建築設計の仕事に携わっているものが看板広告することは越権行為であると思われる節もあります。線と面、そして色彩から得られる建築の美しさはいう迄ありません、これに意表外の看板広告等を付けられては建築の美しさが損なわれ、吾々として嬉しくない結果を生むことは事実です。しかも住々そうになることがあります。といつてこれが主従は、建築の美しさが主であり、看板広告の類がアクセサリーとして働いていることは間違いない事です。

実際にはこれ等の看板広告の類の仕事は吾々の手を離れる場合が多い様に思われます。又その機会さえも与えられない場合があります。その様な時に、吾々建築家の表現と、これが例え専門家の手に成った仕事であつても、その表現ないしは流れに食違ひの生まれないことは断じ得ないと思います。又それが専門家以外の人の手に成る場合は想像外のものが出来る事は火を見るよりも明らかです。

吾々はこの悪習を少しでもなくする為、建築設計に携わるものは、建築に関連のあるアクセサリーの仕事、これが例え建築物の極く一部分にせよ、一つの大きな流れの重要な役割を果たすことを期して、その流れをもつた表現に導びくべき仕事を課せられている事に信じます。



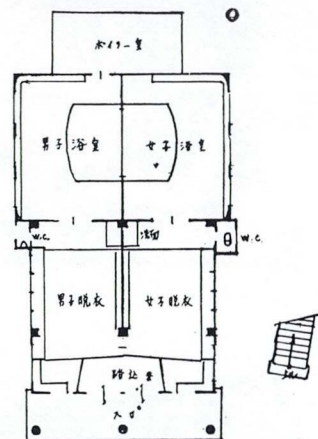
A型住宅単位住戸平面



2階平面図

1階平面図

A型住宅連続長屋式



共同浴場1階平面

石原産業四日市工場塩浜共同住宅



榎田 清 大正12年3月20日生

略 歴

昭和22年 京都大学工学部建築学科卒業
直ちに大阪府建築部営繕課勤務
昭和26年4月 同上退職と同時に株式会社
安井建築設計事務所に入り、設
計監理の実務にあたる。

「すいせんのことば」

武田 健三

青年建築家として、榎田君を紹介いたしました。建築事務所に勤めておられる若い方々としては、仲々自分自身に全面的にまかされて単独にその人の作品となる場合は、少ない結果となりますが、設計担当者として、又引続き現場監督として、ここに発表していただく作品の多くの部分に、兄のたゆみなき努力のあとがみとめられると思います。

作品の種類によつて、協働作品となるべき性質のものだと思ひますし、又事実数名の他の若き人々の協働によつて、作られたものであることを、特に強調したいと思ひます。

幸い兄は、現在県営住宅のコンクリート造の建物で生活しておられ色々、使用者側としての意見も経験も豊富だつた事が作品を一層よりよきものにしたと思ひます。 (推薦者 安井建築事務所)

石原産業四日市工場塩浜共同住宅概要

- 住宅型式 単位住戸二階建連続長屋式
- 坪地構成 A型棟（一戸当り 15.8坪）8棟
B型棟（一戸当り 14.8坪）17棟
各戸共2世帯一棟木造2坪の物置あり
共同浴場（二階クラブ） 1棟
生活協同組合購買部建物 1棟
浴場管理者住宅（木造） 1戸
購買管理者住宅（木造） 1戸
団地内営繕用事務所（木造） 1棟
他にグラウンド、記念碑、児童遊園地、植樹計画は一部完成、逐次整備中 敷地約2万坪
- 構造 鉄筋コンクリート二階建、壁式構造
浴場、浴室部はシャーレン構造
- 設計監理 株式会社安井建築設計事務所
施工 清水建設、大林組、大成建設、鹿島建設
- 工期 昭和28年10月～29年5月

写真説明

- A型住宅南側
- A型住宅北面
- 生活協同組合購買所
- 共同浴場（階上クラブ）

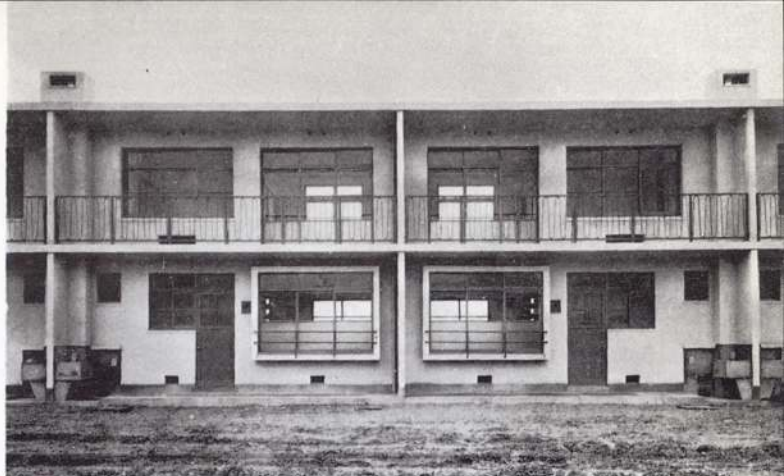
集合住宅寸論 櫛田 清

石原住宅塩浜団地建設の仕事と私の身の生活環境等から身辺なこと等、断想の一部より問題のみを掲げて集合住宅計画上の私なりの反省の方向を捉えて見ました。

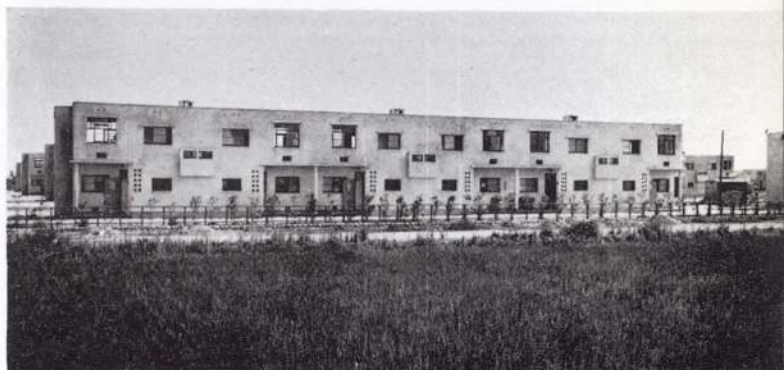
所謂テラスハウス式（一、二階を単位住戸とする連続長屋式二階建）の長所としてはアパート生活乍ら各戸で必ず庭が持てること、比較的在来の生活慣習に近い内容をもつこと等ではあるが、反面最小限度の敷地にしてしかもこれが一、二階に分割されることはたとへば建築家が食寝分離等の法則性で割切つたとしても、何か生活感情的な着きのなさ、近頃の言葉でいうコアの不明確さが実生活者にとって気になりはしないだろうか。勿論家族構成の差違や昼夜二交代制勤務等という条件の場合には合目的ではあるが、この型に限らず一般的問題として収納家具配置上の配慮、採光量の快適性、光熱源の問題等個々の条件は勿論特に保守管理上の点はデザイン以前の問題として配慮の順序を間違えぬ事、狭小住宅故の極度の合理性の追求と、合理性、実利性の一部の犠牲から生れた貴重な生活感情上のゆとりと、何れが住む人にとって大切であるかという問題等々。団地計画に於ける共同施設の附随的意味から生活圏の不可分の要素としての再認識。問題は多々あるにしても石原の場合規模的にも珍らしいケースとして一応の成功を得たと思います。日浅い私のアパート生活経験から多層形式住宅をも含めた単位住戸計画上の問題で生活実態と建築家の指向すべき方向について更に断片を追うならば、現段階程度の規模の中で、プライバシーを狭きが故に少しでも広く住みたい、感じたいという切なる懇求の中で、いかに技術的に解決するか。又従来の一般住宅でいわれた住宅原論的法則性を金科玉条の鉄則としてこの種アパート計画に持込むならば、建築家が合理化と考える観念的枠の中で生活内容及び形式を固定化してしまう虞れはないだろうか。設計上就細と考えられる間違いの故に生活実態はとんでもない融通性を発揮すること。百も知りつつ名物万端飾風景は後を断たず、テラスと称しても、建築家の空想仏の結果を招来したり……。

一つには住及び建物形式が未だ実験的過渡期にとどまる故のまづき及び経済的な制約、一つには既成観念的住生活をそのまま持込ますとする無自覚性から由来する混乱等、甲論乙駁だろうが、一応危惧される点は多少変形を試みても、既成住生活観念と、戦前の豊かさの中で育つた既成建築家が念出した智慧は、経験浅い若輩建築家が住宅建築に自称デザインを振舞ふことの危なかしさと同様、今の時代の生活者の真の懇求から離反しない様に。

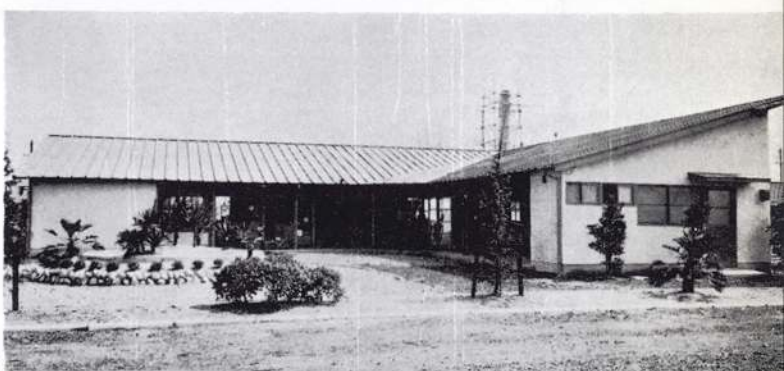
ともあれ敗戦後の粗悪な道路を走らねばならない大衆車であるということの上に、デザインを考えて見ようではありませんか。



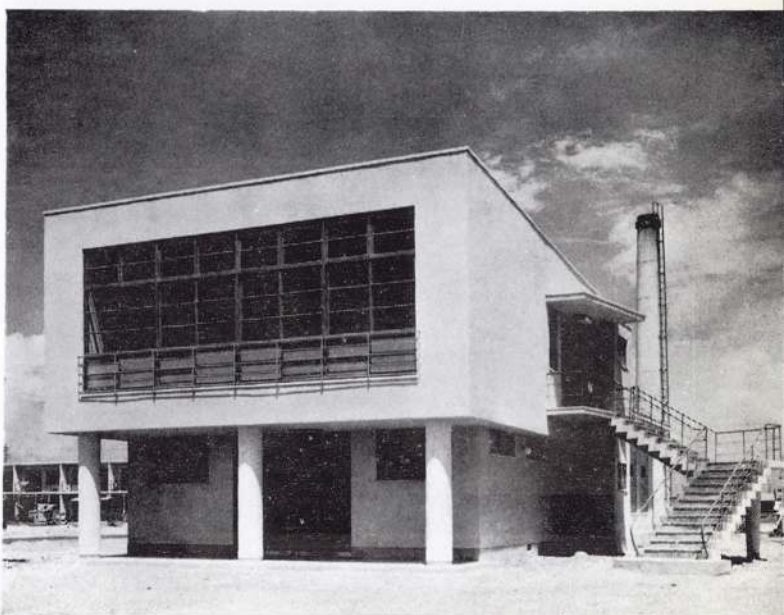
1



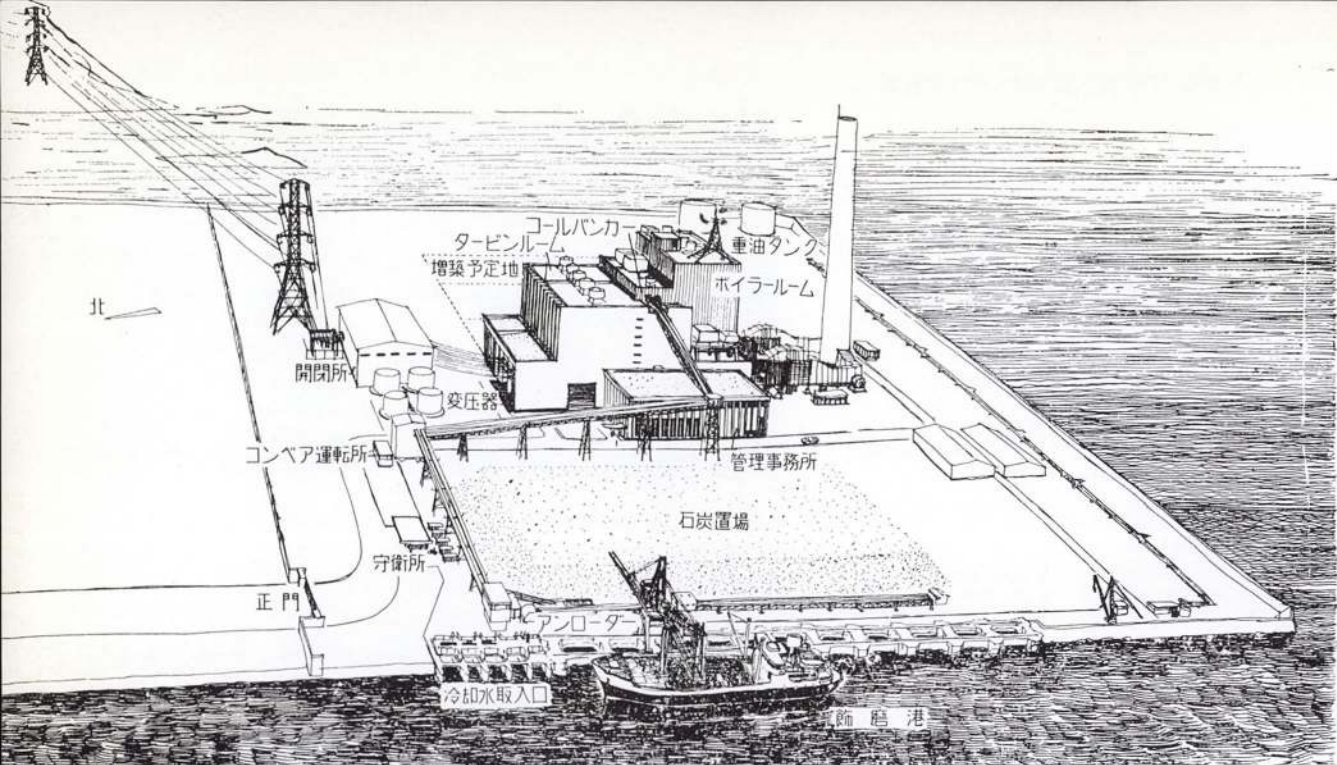
2



3



4



姫路発電所

姫路発電所の設計を終えて

栄木一成

所在地 姫路市飾磨区中島地先

建築面積 本館 2,036.13坪

管理事務所 604.94坪

概要

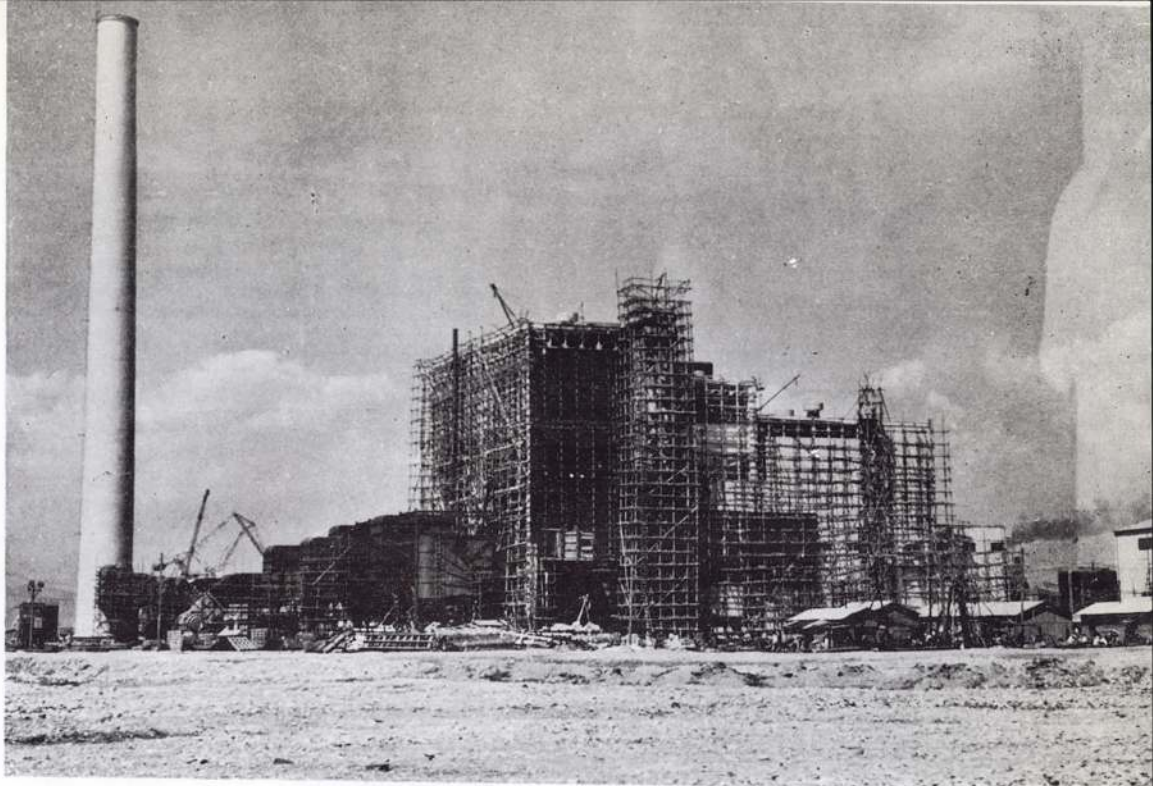
ボイラー・発電機室（本館）と管理事務所に別れていて、本館は基礎・ベダスタル抗打、主体・溶接を主とした鉄骨造、屋根・波形鉄板の上に配筋し、ショットクリート吹付の上アスファルト防水層（カッパーメッシュ）砂撒き仕上、壁・発電機室廻りと14M以下の部分は鉄筋コンクリート色モルタル仕上、ボイラー室廻りはフレキシブルシート成形版を用いた。管理事務所の方は、基礎・松杭打、主体・鉄筋コンクリート造、屋根・アスファルト防水層の上シンダー押へモルタル目地切仕上、壁・色モルタル吹付とした。尚本館とは渡廊下で連絡している。

外壁に用いたフレキシブルシート成形版は、充分なる検討と実験の結果、8耗厚のフレキシブルシートを成形して、巾0.5米、長さ1.82米のものを縦長に貼げ、継手は目地が入るのみで、同一面に仕上ると同時にエアータイトになる様考案した。又主監に当たる中央操作室は、主体と絶縁して防震防音構造とした。

この建物は去年の2月本設計に着手し、本年8月を以て竣工の予定でありまして、これと前後して起工された、矢張り関西電力の多奈川発電所が全て輸入品によっているのに対し、これは全部国産品でまかなわれている点は我々により刺戟であり、技術向上への一つのテストケースと考えているものであります。

総合計画は関西電力側で為されたので、我々はその建築方面のみを担当したわけでありましたが、当初、内部機構の複雑さと色々な制約とに大いに戸惑ったものであります。しかし幸に関西電力側の御理解ある御指導によつて順調に進み、本年1月より機械の据付けも始められております。外殻については、この発電所は殆どリモートコントロールする様に計画されておりますので、コルビジエのその様に壁はなくてもよいのでありますが、何分海に突出した場所であり、去年の颱風に際して防潮堤に当る波濤は20Mの高さに達し、それが霧状になつて、この建物の下半分を蔽う始末でしたから、内蔵諸機械を嚴重に保護する為に、我々は必要にして充分なるこれが目的を達成させ、しかもコストの問題を解決する為には、如何にして無駄を省くかという点に、特に苦心したのであります。同時に発電所としての特徴、即ち重量機械類の躍動、それをそのまま形態に表現して、管理事務所、その他一連の建物に迄及ぼしたのであります。

私は敗戦に続く国際関係や経済関係の不安とデカダンスの中に明け暮れている8年間を、設計に従事して来たのでありますが、振り返つて見ると、その作品は一つとして今以て自信の持てるものがなく、苦悩する許りです。今後益々複雑化してゆくであろう近代的機構の裡に於て、更に広い観点から現実の上に、建築家としての正しい立場を充分認識して、創造的なものの中に生活して行きたいと念願しております。



推薦に値する —

これが推薦の言葉です。

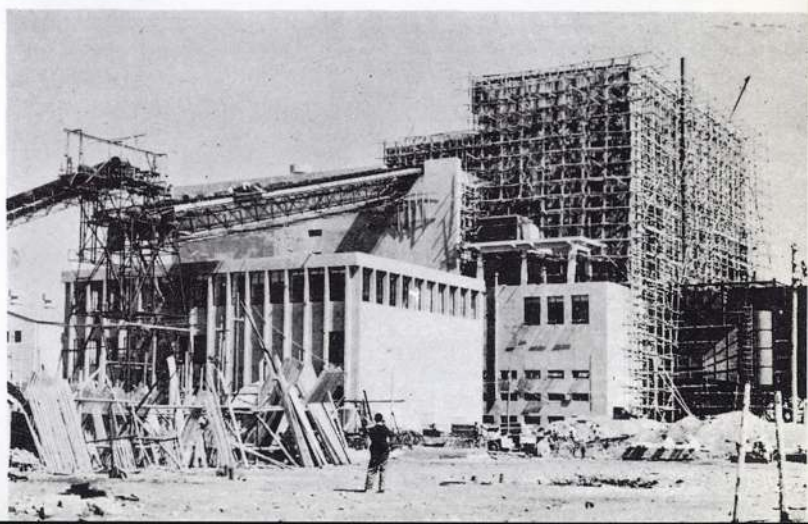
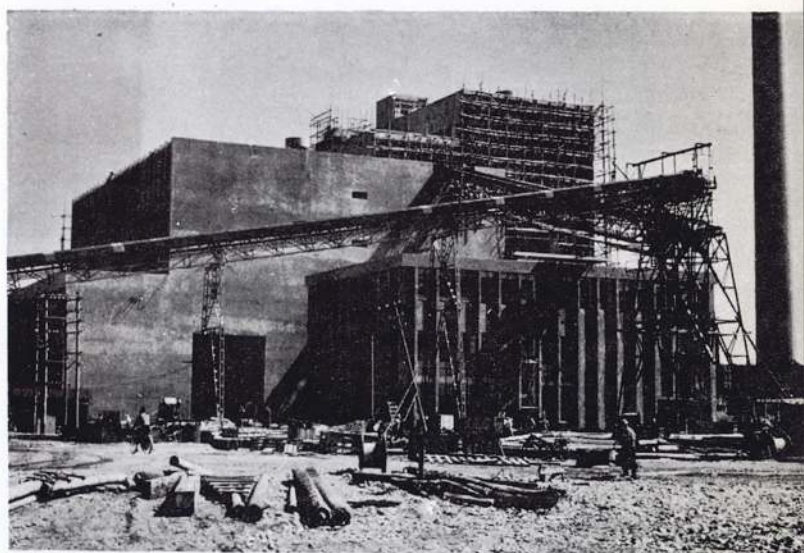
小田島兵吉

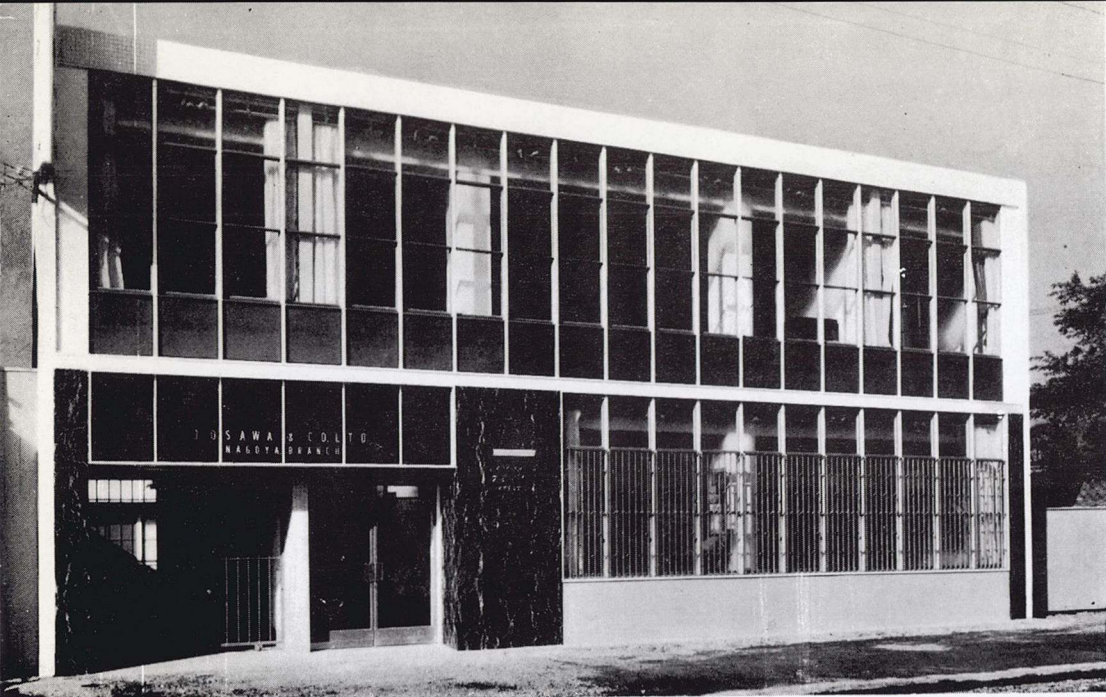
栄木一成

大正15年4月24日生

略歴 昭和22年3月 都島工専卒業

同年4月 大林組に入社
設計部勤務

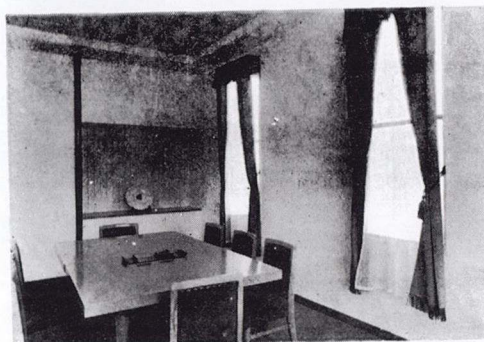




大沢商会名古屋支店

位 置 名古屋市中区本重町1丁目13番地
 敷地面積 111,030坪
 建物面積 建坪 76,116坪 延坪 134,741坪
 構造概要 鉄筋コンクリート造二階建、
 一部附風屋木造平家建

本建物については本誌30年1月号に紹介している。

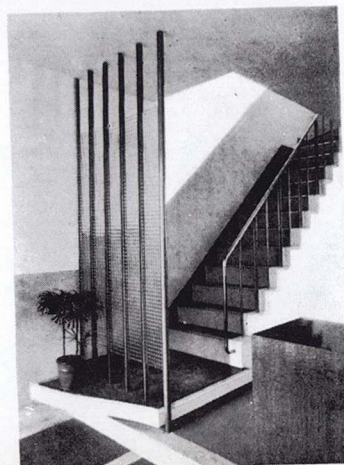


加藤 啓 治

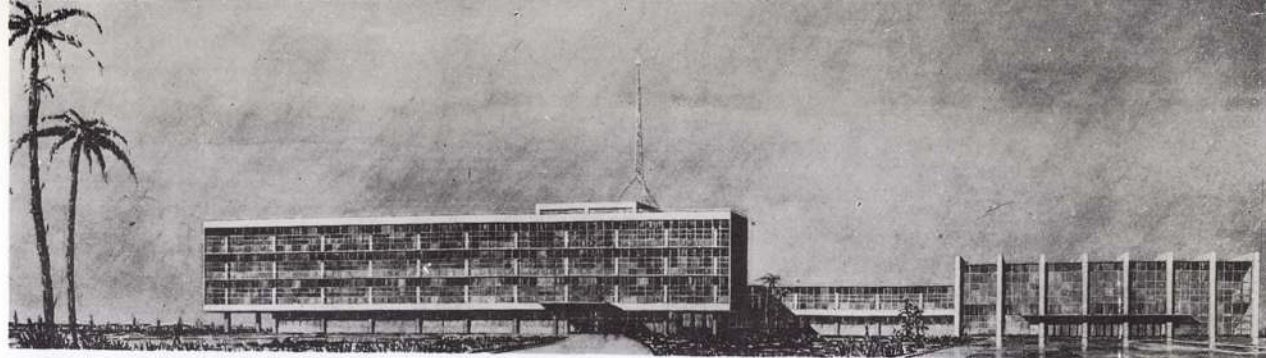
大正15年8月27日生
 本籍地 半田市字郷中168番地



学歴 福井工業専門学校建築科
 昭和22年3月卒業
 職歴 昭和22年4月 清水建設株式
 会社入社
 " 九州支店設計課勤務
 昭和24年12月 名古屋支店設
 計課 現在に至る

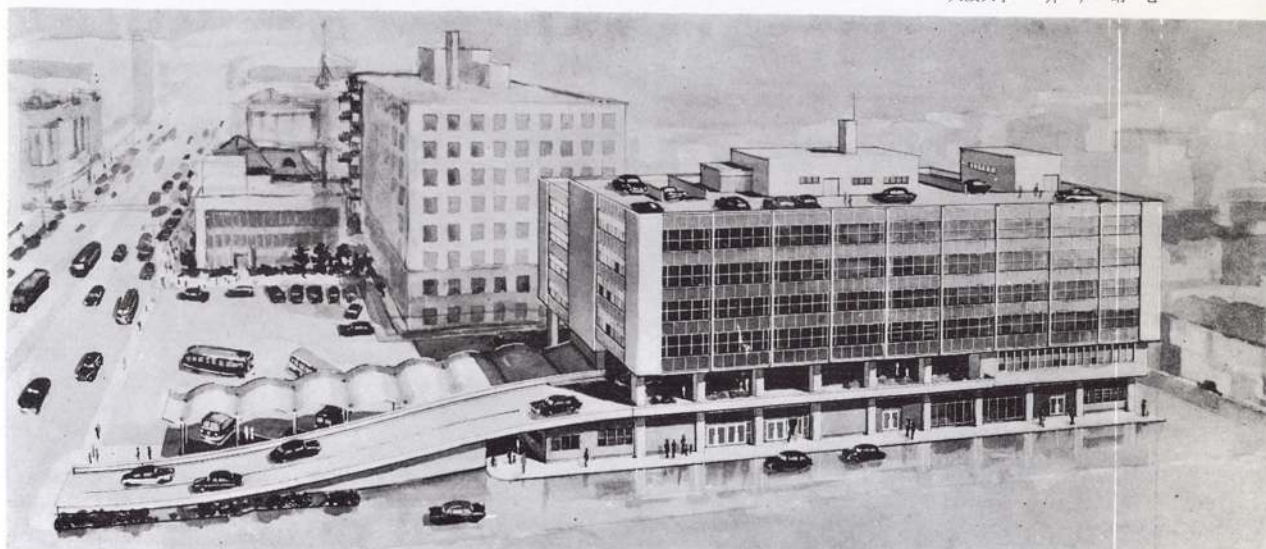


加藤啓治の作品



放 送 会 館

大阪大学 井 戸 昭 七



A Building for Parking Garage & Bus Terminal

京大 池田有隣

近畿大学工高卒業設計 コンクール入選案 1955年

1. 放 送 会 館 (建築学会賞)
大阪大学 井 戸 昭 七

2. A Building for Parking Garage
and Bus Terminal.
京都大学 池 田 有 隣

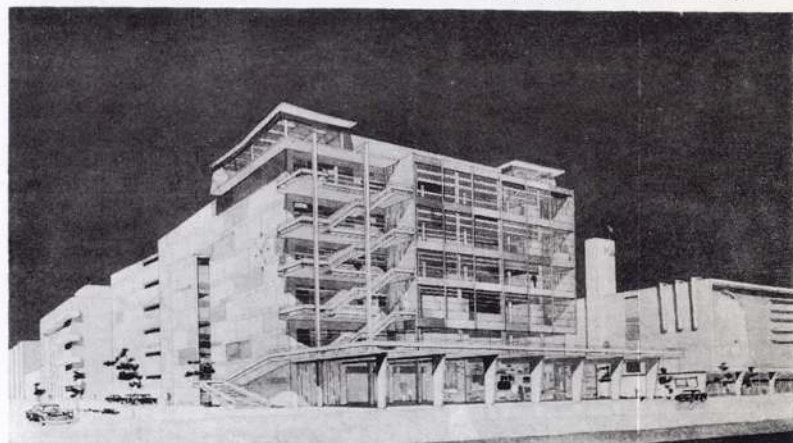
3. 幼 稚 園 (建築学会賞)
京都工芸繊維大 和 田 晋 弥

4. 劇 場
大阪市立工芸高校 柳 ケ 瀬 教 介



幼 稚 園 設 計 案

京都工芸繊維大 和 田 晋 弥



劇 場 計 画 案

大阪市立工芸高等学校 柳 ケ 瀬 教 介

建築考現学の必要

今の若い人は知らないだろうが、今から25年位前に、早大の今教授の提唱で「考現学」ということが盛にいわれた時代があった。これはいうまでもなく考古学に対立すべき学問である。所が、そのうちに、「女の持っているハンドバッグに何が入っているか」というようなテーマばかりが取上げられスケッチ入りで雑誌を賑はしたが、今教授の真意からは次第にはづれて、遂にいつとはなしに消えてしまった。

しかし、吾々が建築を設計し、批判するのに最も信頼出来る尺度の一つは、実にこの「建築考現学」である。私はこれを計画原論の重要な一半をなすものと考えている。つまり、計画原論には、普通に定義されている様な空気、水、光、熱音等に関する物理的、化学的、心理的、生理的の諸問題を取扱う分野の他に、広さ、高さ、数量、利用の特性等に関する統計的調査分析の分野がなくてはならない。東大、吉武助教授のやつていられる施設規模に関する研究を今少し広げたものに相当する。これがなくては、廊下、ホール等の広さ、便器の個数、非常口の巾も根拠が薄いことになる。つまり、理学的原論に対して、統計的原論といつて良いものだろう。特に若い人は、資料の殆んど無いこの分野に取組んで、建築界に貴重な礎石をおかれることを切望するものである。(Y)

建 築 の 眼

建築技術者の向上

このごろは造船所では橋や鉄骨建物等、地上構造物を盛んに作っている。かつてG生は造船屋さんから、鋼板製の巨大なサージタンク（水力発電所にあるウォーターハムマをさけるための遊水タンク）の設計法について相談をうけたことがあった。まさしく造船技師はいわば岡に上つたカツバである筈である。ところがいろいろな書物の個所を指示して方針を参考に供しただけであつたが、よく理解して設計をまとめられた。造船技師達には簡単な微分方程式はみづから解いて片づけることは常識である。これにひきかえ建築技術者はいままでは、単に建築計算規準を駆使する熟練者にとどまつていたようだ。米国の *Proceeding of ASCE* をみれば多くの会社の技師達の報告がみられる。また独逸のかの構造界の巨匠 *Dischinger* さらにつづく *Finsterwalder* 等々は会社の技師である。建築工学は大学の独り舞台ではない。一般技術者の向上とあいまつて健全な発達をなすものと思う。またその機が熟してきたように思う。大阪でもたれているある30名ばかりの若い建築技術者の会合はすでに半才をむかえようとしていることはかかるいみからよるこぼしいことである。(G)

あぶなつかしい建築術

経験ある建築家でありながら建築の施主である大会社の技師として、もつぱら建築を注文する仕事だけをやつているある中年の建築家にあつたときの話。設計家にはうつかり仕事を信用してまかせられない。建物を新しい材料や造形、その他さまざまな試みの実験台につかわれるからというのである。やつてみてうまくいけば建築家は得意気に自分のオリジナリティを誇り、宣伝してまわる。次の金もうけの糧にする。が、これはまだいいとして、失敗したらどうか。その跡始末を強いられ、建物がありつづける間ひどい目にあるのは施主側だ。これはあまり目立たぬ。結局被害者のなきね入りだ。だから建築家のもつてくる暫新の案は警戒が必要で、どうしても保守的にならざるを得ない——という。商業主義と結びついた冒険、社会的に極めて能率のわるい経験の評価・蓄積。こうした建築術のつき当つているカベは、宣伝と商策に狂奔しているおえら方の「反省」でなく、この泥仕合の中で矛盾を感じ苦しめられている人々が互に無縁でないと自覚し、語りあうことから打ちこわしはじめられよう。(U)

船越義房・堀口甚吉・横尾義貫：けんちくのみめ

建築風物学の提唱

風物というのはドイツ語の *Realien* の訳語で、風土文物の略である。外国の建築の写真をもて、風物の知識がなければ、その写真を完全に読み得たとはいわれない。この意味において建築風物学の起ることを望むものである。しかしこの種の学問はまだ未発達の状態であるのでこれに代る書籍によりこの渴望をみたすより外に方法がない。

建築風物学の資料としてはフランスに対する滝沢敬一氏著フランス通信第一から第七、中国に対する内山完造氏の著書など参考になる。

丸善KK発行の雑誌「学燈」の本年三月号四月号に画家三雲祥之助氏が「日本人の生活様式の基調、坐る習慣腰かける習慣」という文を載せていられるが、これまた建築風物学の一資料であり、東西文明比較論でもある。近來読んだ文章のうち最も楽しく有益なものであつた。(J)

老人よ、しばらく御遠慮を！

浦 辺 鎮 太 郎

東洋の社会では老人が尊敬される。(されたの方が正確かな?) 青年の頃社会に出て感じた事は年令の持つ圧迫感であつた。若い頃のことを覚えていて先輩には今でも頭が上らない。しかしながら年令を重ねていく間に先輩に対する親しみが湧いて来たから妙である。逆に益々反抗心の生れる場合もある事はあるが。何れにしろそれで漸く押えられるような感じから解放された。

老人の本当の気持が分る年ではないが、建築界には殊に自分では一向老人と自覚しない人が多い。恐らく「自分は青年にアルファの年令を加えた青年だ」と信じていらつしやるのであろう。問題はこのアルファにある。一つの道に打込んで知らぬ間に重ねたアルファならば何かそこから光りが輝やいて来る。私はそのような老人こそ永遠の青年と呼ぶべき人だと思う。幸福なことであるが建築界は永遠の青年を持っている。無駄に取つたアルファ年令からは殺人的愚痴が放射される位がオチだ。これ亦不幸にも建築界に存在する。

青年も必ず老年になる事は確かである。青年建築家が

いつ歴史的作品を残すだろうかと予想することよりも、もつと確かな事柄だ。先見の明ある青年なればアルファ青年からも又学ぶ点が多々あると思われる。

本号を青年、中年あるいは老年の読者の皆様が一覧されて如何なる反応が起るかと思像することは編集者の一人として誠に愉快で堪らない。眼鏡もかけずに6ボの細い文まで読んだ上「やりよるわい!」と破顔一笑される老人を想像することは楽しい。サツト投げ出して「若い奴等は困つたものだ」と苦虫を噛みつぶす老人を想像することは悲しい。

もつと悲しい事は同じ青年でありながら好悪何れにも無関心な青年を想像することだ。(私はこんな青年こそ老人と呼ぶに遠慮しない)。大器晩成するものかしないものか別として建築一辺倒の意欲の人はいつまでも若く、そうでもない人は早くモーロクするようだ。若朽と老醜には暫く御遠慮願ひ上げた上、青年の乱舞する壮観を私は拝見しよう。

(筆者 倉敷レイヨンKK営繕部長、本会編集委員長)

構 造 と 法 則

棚 橋 諒

建築の構造を支配している法則がある。法則が発達して構造が進歩した鉄筋コンクリート構造や鉄骨構造もあるが、経験的に多くのものが築造されてそれから法則の方が後から発見されたものが多い。例えば力の平行四辺形はガリレオが発見したものだからルネッサンス時代である。しかし中世のドームやアーチは力の力解合成というものがつかまえていなければ建てる事が出来ないものであるから、すでにその法則が何かの形でつかまえていたにちがいない。木造の許容強度などは木材の強度とものをもとにして決められたものというよりも、通常用いられている木材の寸法から逆算して割り出されたものではないかと思われるふしもある。建築の構造に使っている木材の寸法と建具などに使っている木材の寸法ではそのきめ方のものがちがう様に思われる。構造部材の寸法などはただ応力の安全度ということだけでなく、

撓みやその他も考えに入れて寸法が決められ、その寸法からウオキングストレスを計算してみても大体許容強度がきまつたのではないだろうか。

又木造の部材の寸法のきめ方など必ずしも強度とかバックリングとかいう様なむづかしい事を考えないでもある程度それらの数式を満足する様な木材寸法の決め方があるわけであつて、そういう法則が工匠の中に秘密にあつたかも知れない。例えば、木材の種木とか梁とかを幅をその部材の間隔の十分の一とかに成を張間の二十分の一とかに決めれば、同じ様な荷重に対しては同じ様なストレスと撓みを得る様になる。従つて檜皮葺なら何分の一、瓦葺ならば何分の一という様な簡単な割り出し方があり得るのである。

(筆者 京都大学工学部教授)

前会長片岡博士追悼会と五月午餐会

昭和30年5月26日正午 於今橋クラブ

どこかの原子爆弾の影響ではないかとさへ言われる程此頃の空模様は気まぐれで、今日の日を気づかわれていたが、朝来五月晴れの好天に恵まれ定刻迄会するもの八十余名近來稀な盛況であつた。

当日は故人が尤も最初今橋に事務所を設けられた近くの日本経済新聞社今橋クラブを会場とし早朝から式場万端準備を整え委員一同待期する内先生門下を始め平素の午餐会には殆ど顔を見ない会員各位が何年振りかの会合に御談暫し、やがて片岡銓太郎氏と盈衛子未亡人が着されたので、一同を五階会場に案内手島常務理事司会の下に11時半より片岡前会長追悼祭を行つた。

金屏風の前にしつらえられた祭壇中央に故博士の御肖像がクローズアップされ、平素朝日ビル事務所に掲げてある見馴れた肖像画より一層映えて今更の如くなつかしさを覚え、御生前の種々の事が想出され感慨深いものがあつた。式は修祓招霊神官祝詞会長の追悼祭文型の如くであつたが、会長祭文は別項の通り在りし日の御功績につき一同想を新にするに十分であつた。

玉串奉奠は時間の都合上神官会長（会員一同と共に）片岡銓太郎氏、未亡人、三寸里会（元片岡事務所関係）K I 会等の代表者が夫々行い、式を閉ち同所で午餐を共

にした。

食後竹腰会長別項の如く挨拶あり古い方より追憶談を願う旨述べ四国路より、参列された故人に係深い長老佐伯与之吉氏に指名方を依頼あり、佐伯氏より業会の長老格白杉嘉明三氏、錢高久吉氏、松尾岩雄氏、K I 会代表有田桂太氏、元副会長今林彦太郎、松本儀八氏、滝沢真弓、井上福蔵氏等夫々別項の通り追憶談があつた。次に手島常務理事より本日不参の波江梯夫氏より感想文と石本喜久次氏電文朗読した。当日は尙多くの方々よりお話を願う予定であつたが午餐の事であり、時間の都合上三寸里会各位は閉会後別室でお話を願う事とし、誠に残念ながら其他の各位は予定を変更し割愛二時閉会の事にいたしました事を不悪御諒承願います。

時間も少くお話も数氏に止めたが先生を偲ぶ事は十分出来た事と思われる。

右終つて、竹腰会長閉会の言葉を述べられ片岡銓太郎氏より感謝の御挨拶後解散したのは正2時であつた。

尙当日の挙式に当り片岡家並三寸里会、K I 会、八木工務店等より夫々御供頂きました御厚志に対し誌上より深謝申し上げます。（30.5.26 委員記）

故片岡会長追悼祭文

昭和二十一年六月七日中央公会堂に於て本会外二団体と共同で涙の中に先生の告別式を営んでより早くも十年の歳月が夢の間に過ぎました。今日の御命日を機に御遺族方の御列席を得て追悼会を催すに当り本会十年の歩みを御報告し聊か御霊をお慰め申したいと念ずるものであります。

先生を失つたあとの数年は戦後混沌たる社会状況の渦中にあつて本会の進むべき途は容易ならぬものでした。先生の分身たる愛会の念厚い熱心な会員諸士と共に幾多の難関を突破して日夜再興に努力の結果定款改正に伴つて従来の技術部門の外総合、電気、管工、建材等各部門一層の協力を得て愈々其基礎を固めることとなり爾來雑誌建築と社会の復刊、東海以西に六支部を新設、戦時中の離散会員の逐年復帰など会勢を挽回今や全国五千に垂んとする会員を擁するに至りました。

此間二十七年には創立三十五年を迎えて之を記念するため各種有益なる事業を行いました。之等は先生御一生の信念たりし社会奉仕の意を体し会員各位が

協力遂行したもので先生の遺録を享けついでいる事を御報告申し上げます。更に先生が多年主唱推進されました市街地建築物法は二十五年五月建築基準法として施行されましたが本会もこれに一役を果したことは吾々も本懐とする所であります。

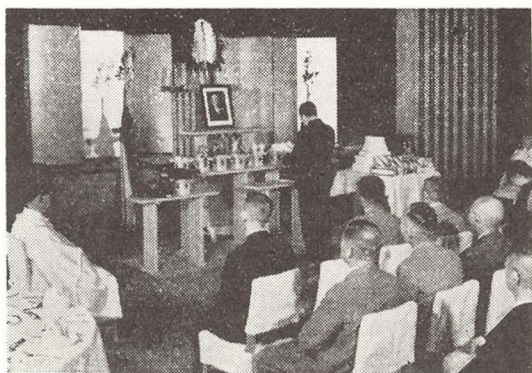
又灰燼と化した大阪都市も駅頭十二階建の偉観を始とし全市に大小ビル巍然として聳え近代建築の美を競い之等建物は殆ど本会員諸士が直接間接関係されて都市建設に大なる役割を果しつつあります。吾々は今後共先生の御遺志をつぎ本会使命の達成に邁進せんとするものです。願くは御心安かなお眼りを続けられますと共に産みの親育ての父として本会発展のために一層の御加護を賜はらん事を。

吾等先生のあとをついで十年追慕の情切なるものあり即ち茲に御命日を卜して追悼会を催し感謝の念を新にすると共に御功績を偲びつつ会員一同を代表し謹而御冥福をお祈り申し上げます。

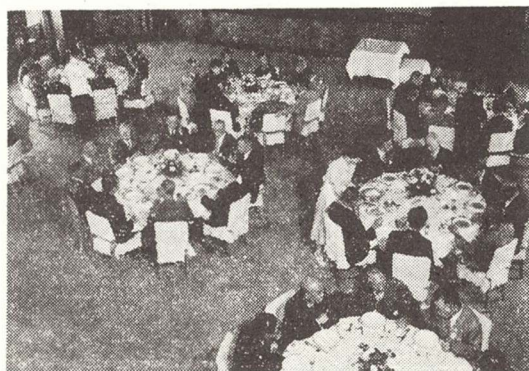
昭和三十年五月廿六日

社団法人日本建築協会々長

竹 腰 健 造



追悼会式場・竹腰会長追悼祭文を読む



午 餐 会

故 片 岡 先 生 追 憶 談

▶竹腰会長

本日は前会長片岡先生の追悼会を催しましたところ、御多忙中多数御参加頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

戦後は年齢等満をもつて数えられ先生の満10年祭は明年片岡家で営まれるそうですが、協会は旧式の数え年の方で10年目の御命日として本日催しましたことを御諒承下さい。また本日の催しに片岡先生と御関係の深かつた「三寸里会」、「K I 会」、八木工務店各位から何かと御配慮に預りましたことを御披露いたします。

さて、片岡先生のことはすでに御承知の通り、本会の創立者であり、お亡くなりになるまで会長であつた全く産みの親であり育ての父でありました。また日本における西洋建築の開拓者であります、特に大阪の建築家は先生のお世話になり、大阪の西洋建築の開拓者でもありまして、大阪には誠に関係の深い方でした。

自分のことを述べて恐縮ですが、私は住友で日高胖先生のもとで技術を修得したが、いわば世間知らずだつたのに片岡先生に社会に対する薫陶を得、ともかく今日に至っているのは全く両先生の賜と、昔を偲び感謝しております。本日は御夫人、御長男の列席を得ましたが、私共が常に先生を敬慕していることを御記憶願いたいものと思います。

人間は自己の残した事業がよくいくことと、子供の将来の良くなることを望むのが常だと考えますが、先生の残されたお仕事のうち協会も5,000人に垂んとし、ともかく引続いてやつておりますし、また御子息も今日立派な社会的地位を占められており、先生も御満足のことかと思ひます。本日は多くの方から先生の追憶談を承りたいのでこの辺で止めまして、古い会員の佐伯さんに数氏御指名して頂きたいと存じます。

30.5.26.1時～2時 今橋クラブ

▶佐伯与之吉氏（本会終身会員、片岡事務所出身）

指名せよと指名されましたので、これから数氏の方に先生の追憶談をお願いいたします。

▶白杉嘉明三氏（大林組相談役）

先生の識見、人格等は略しまして、私の初対面は明治32年中之島日本銀行建築の時でした。当時は鉄筋などなく、2米近く掘り方をやつた。自分入社一年位の小僧時代であつたが、当時、先生はまだ細野姓、その時のレンガの検収がととてもやかましくレンガの寸法を函で造り一個宛入れてガタガタ振り廻し納入したが、堺辺りの煉瓦メーカーが悲鳴をあげこわつてきたので困り、先生に話したが結局自分が検収役にされたことがありました。爾来、50年来お世話になつたのでありますが、梅田新道の今の安田銀行、当時は百三十銀行支店がコンクリート建築、本町の伊藤忠商店等の鉄骨鉄筋工事を始めて大林組が施工したが、先生は毎日現場に来られ、叮嚀に指導され、大変啓蒙された。恐らく他社も同じだつたと思います。

他の先生にもお世話になつたが、辰野先生、片岡先生についてはもつとも感慨深いものがあります。その後、建築協会を設立されたが、吾々の業協会の設立にも少からず尽力されました。若い頃はととてもやかましく厳格でありましたが、亡くなられる10年前頃は大変円満で親切だつたことが忘れ難い印象に残っております。

▶銭高久吉氏（銭高組会長）

初めてお目にかかつた頃は、颯爽たる姿であつたことを子供時分にみました、と、いう先代からの恩人白杉さんのお話の通りとても厳格でした。その後新町橋加島銀行支店建築当時、先代がイギリスからミキサーを購入しガソリンエンジンを使用した、初めてのことでなかなか困つたが先生によく教えていただいた。

なじむまではとてもコワイ、おこられる人と思っていたが、お交りをするうち、だんだんとわかり非常に親切な方だった。後、大阪工業会の理事長となられ、何かと下働きを承つたが、大分円熟されたとはいえ、誰でも遠慮なくビシビシいわれていた。

会議所副会頭、会頭時代もよく会議所にいつたが、ここでも皆おこられていたが、先生を悪くいう人はなかった。それは根がごくよい方だから、にくめないサツパリした人だと判るからだろうと思います。私共も時々「君は今シャベツてはいかん、やめとけ」などといわれたこともあります。しかし、私心のない全く偉い人だった。

▶松尾岩雄氏（松尾橋梁社長、三寸里会）

大阪中央公会堂建築の終り頃、亡くなつた谷君が東松式エレベーターを株式会社に設立したいとて、社長にかつぐ人の相談があり先生にお願いした。これが国産エレベーターの嚆矢で今は日立製作所に合併されているが……。その後、私共の松尾橋梁の会長になつていただき感謝しております。現在までも生きられたら、何かと建築界のためお願いすることが多くあると思うのに……。相当お小言は頂いたが忘れられないという味の人でありました。

一面人情厚く戦後、砂糖が蔵の隅から出たからとて奥様お手製の羊かんを持参されて曰く「これは君は食つてならん、孫に与えよ」として頂いた。早速孫にやつたところ、孫は羊かんというものを知らなかつたので、その時初めて羊かんの味を覚えたということは今でも一家の忘れぬ思い出で感謝している次第であります。

▶今林彦太郎氏（元副会長、三寸里会員）

学校を出てから先輩松田倬作君の所に厄介になつていたが、妙な縁故で片岡先生が市役所建築時代、手伝いに来ないかとの話があり、当時としては大阪市役所は珍しい大建築で、自分のような無経験の者が役立つかという不安があつた、片岡先生のような大先輩の指導を得たいと思つたので松田君に相談して先生にお願いした。銭高さんに仕事をやつて頂き、自分は設計主任者になつたがなかなか苦心であつた。先生には随分おしかりをうけ数年間過した。しかし厳格な指導と教訓であつた事を、むしろそれを感謝している次第です。

自分の経験からすれば、学校出はさしづめ実社会には役に立たぬ、技術の面でも友人や若人に聞くことは一種のヒガミ根性というか好まぬ時代だったので、苦しみはすべて片岡先生に教えを乞うた。そのおかげで、その後大林組に入社してからでも大変役立た。

また深く印象に残っているのは、市役所当時、休みは交代であり、自分は市役所からサラリーをもらつて身体は片岡事務所という立場にあつたが、そのとき休暇で一週間休ませてもらいますという、「君、金はあるか」

一週間も旅行して金のない休暇は駄目だろうとて、ポケットマネーで一週間分ぐらゐの費用を預いたときはとても嬉しかつた。厳格な反面、温い所があり、他の者に聞いても、同様な扱いを受けていた。これなどいまだに忘れがたいところであります。

▶有田桂太氏（K I 会代表、石本事務所大阪主任）

大正8年から15年頃まで片岡先生の指導を受けました厳しさのなかに涙をもつてさとされた。K I 会は昭和2年石本喜久治氏が片岡先生の御支援のもとにできたものです。いわば、片岡事務所閉鎖当時十何人か引継がれた形だった。現在、その本流は石本氏と自分二人で、あとは新人ばかり。三寸里会は広い面における片岡門下、K I 会は事務所本流として横のつながりだといえましよう

思い出は遠く上海の石本事務所在勤時代にのぼります昭和13年日支事変で上海市辺に支那兵の死体がゴロゴロある頃、ある日支那新聞で片岡先生が秩父丸で渡欧され上海に寄港の記事を見、その時間に秩父丸を訪問、大変喜ばれた。数分間お話しした際、人間はある一線を越えた仕事に従事せよ……云々だったか、最後に何か承りたいという「経験は力である、君忘れるな」……ともかく上海六年の生活を終え神経衰弱や病氣等になつたが、「経験は力である」のお言葉は常に座右の銘として今日に生きております。

先生はやかましい人という評判のみ大きくいわれるが常に人間を育てることを考えておられたものと感謝している一人であります。

▶松本儀八氏（本会名誉会員、先生死去時本会副会長）

今ここに先生の御肖像を拝見し、在りし日の面影を偲び深い感概を覚えます。私は先生の御最後の当時、副会長の職を負つていましたので御病氣と聞き役員会を開いて当時の大和書記長と桃山のお邸にかけつけたのは5月8日と記憶します。その日は病床で腕をさすり大丈夫だよ、心配し給うな、とのお言葉で安心して帰りましたが病が急変され遂に永眠されました。当時役員会で協会葬の予定でしたが、工業会や建設業界方面でも大変に密接な御関係上、3者合同で6月7日、先生のなじみ深い中央公会堂で告別式が挙げられ、栗本さんが委員長、私が副委員長を仰せつかまつりましたので、今日の10年追悼会には一入感概深いものがあります。

戦争中からお亡くなりになりますまで私は4、5年副会長の役にあり何かとお指導を受けましたが、いつも厳格で、誠に非凡な方でありました。何事も時間厳守、約束は必ず果すという点など大変教えられました。副会長という役職の上か、私はおこられたことはないのですが、叱るというより常に教えてやる、指導してやるという態度があつた通りアケスに物をいわれたと思います。それが誤解とか感情的に叱られたと皆思つたのでしう

長くおつき合いして滋味温情のあつた方と私は今もしみじみ感じております。

▶滝沢真弓氏（大阪市大教授，学会・協会合併問題当時協会側委員）

私は東京方面からみた先生，……これは日本建築界の歴史の一端にふれていると思う……について思い出をのべたい。私は大正9年に東大を出ましたが，その卒業論文の課題「都市と建築」には皆参つた。当時としては日本では片岡先生著の「現代都市計画」一本しか虎の巻がない。自分は幸い植村俊平氏から，この一冊をもらっていたので，これをネタにした，おそらく東大正9年組建築出は先生のこの著を利用したと思う。

その後，建築学会の役員として編集を担当した時代，学界40年記念大会を関西でやる時，これは事業界の会長でないと駄目だと横河博士を推し，関西でやる以上，建築協会の援助を必要とすることになったが，これは横河先生が，片岡さんに交渉され，先生の支援で，当時としては大変な大会が挙行された。横河・片岡の事業家としての名コンビに感服した次第であります。

その後，関西にきて，学会・協会合併問題がおきたとき，私は以前学会役員だった関係上何かと好都合ということで奇しくも協会側の委員に推された。東に西に両会委員の交渉結果，佐野・片岡の両巨頭に一任のこととなり，片岡先生は内心一緒に線を引きめておられた。当時，「つるや」で委員慰労に招かれたとき，「ともかくも卵二つや鶴の宿」と駄ジャレをお目にかけたら，先生にはめられた。

戦後又ある会合に招かれたとき，学会と合併したら協会が解消し，不満が起るでしょうというと，「若い者が必要と思えばまた作ればよいではないか」と。私は人間片岡に全くブチのばされた感を抱いたのであります。先生にして初めてこのことばが出たことと思う。色々考えて味うべきことばであり，先生の偉大さを痛感したものであります。

▶波江悌夫氏（名誉会員，片岡門下，本会創立恩人）

（病気のため欠席されたが，大要次の一文を寄せられた）

感想一篇

先生平時健康に留意され，大正初年胃けいれんにかかられた外殆んど病気になられなかつた。時間の正確，約束の実行はなかなかで，人にも履行せしむるという堅い信念で行動されていた。

明治時代，大阪に建築家少く，東京から辰野博士，横河博士が下阪のとき懇親会が春秋2季ぐらいあつた。大阪，京都，奈良3都の頭文字を集めて，オキナ会と称した。京都から武田博士と本野精吾さん，奈良からは関野さん，大阪からは住友銀行の野口さん，藤田組の宗さん

横河工務所の松井貴太郎さん，古老の河合幾次さん，野村一郎さん，橋本勉さん，それに神戸から河合浩蔵さん，設楽貞雄さん，という風で気焰を上げ，かくし芸を見せ合うという頗るなごやかな会であつた。

大正時代には若手連が大分多くなり大阪府庁の池田実さん，葛野壮一郎さん等が主となり，陸軍から置塩章さん，津田敏雄さん，裁判所から中村喜勇さん，横浜勉さん，それに住友の長谷部鋭吉さん，竹腰健造さん，宗建築事務所の佐藤四郎さん，大林組の大林賢四郎さん，鈴木甫さん，木子七郎さん，鉄道省から渡辺節さん，という風で「あの会」という会を極めた。名のつけ様がないから「あの会」と簡単な名で，夫々若い気焰を上げたが，おい「あの会」をやろうぢやないかとすぐ打合せができ，2ヶ月に1回宛やつて，夫々勝手な熱をあげた。そのうち，「あの会」が盛になるにつれ，片岡先生，池田実さんとの間で古老と若手が一線を画することになるのは遺憾だと，オキナ会と若手の「あの会」とつまり，古老も若手も常に一堂に会して意志を通し懇親を深め，建築界の発展に力を注ぐべきだと，先生は考えられるようになった。

その頃，先生は都市計画に関する著書を発刊され，ついで工学博士の学位を得られ，更に建築法規や都市計画法の実現に努力を集中され，これを機に建築家総力結集運動に発展し，ここに「オキナ会」も「あの会」も発展解消してこの運動に参加活躍した。その結晶が今日の日本建築協会という大きな団体となり，社団法人に完成したのである。このため先生はあらゆる努力を払われ，また2大法案も議会を通過する所まで進んだ。

つぎに先生は都市問題の前途は耐火構造にありとなし防火問題，耐火設備や協同建築の推奨やら，いろいろ意見を発表する機関誌を考え，協会の「建築と社会」という機関誌を発刊することに努力された。

この外，住宅改良運動各種展覧会，博覧会等の催事を次々に発案実行に移され，今日に至っている。

以上の通り，本会は全く先生の努力によつてできたといつても過言でないと思う。

石本喜久次氏（KI会，三寸厘会）

電文 謹んで先生の御冥福をお祈り申し上げます。

当日参列者氏名氏（敬称略 順不同）

河合貞一郎，吉村清太郎，河村茂，尾崎久助，伊藤正文，松浦基二，宇山廉三，佐伯与之吉，銭高輝之，境正一，渡実幸，進藤朝一，八木繁志，志垣正次，増田邦二郎，島田良馨，鴻池藤一，鈴木末尾，井上福蔵，手島末吉，山中茂一，妹尾一夫，中西六郎，東畑謙三，池田官彦，古賀郷実，西沢藤生，鷲尾九郎，伊丹久吉，右田常季，浦辺頼太郎，吉田安三郎，滝邦一，松井清之助，須賀豊治郎，松村雄吉，池田谷久吉，山本義樹，村野藤吾，長田岩次郎，竹中鍊一，毛利泰三，岡本弘，川村種三郎，氏等80余各以下略（竹腰会長以下お話願う方其他各位氏名省略）

〔当日追憶談は時間不足のため多くの予定者を打切つたので、門下生の十数氏は閉会后、別室にて片岡銓太郎氏と未亡人を囲み、いわゆる水入らずの想い出話を華を咲せた。誠に和かであつたが、雑誌頁の都合上全部掲載できず、二三の方のみに限つたことを諒されたい〕

▶浅海治平氏(協合理事、浅海電気会長)

あの烈しかつた空襲直後、火焰いまだ市内に漲り、さまざま様相中の東区方面でバッテリー邂逅、先生危険です早くお引上げになつてはと申すと、吾々の建設した大阪都市の崩れいく惨状をジツとしていられるか、僕は最後を見届けるのだと、上六方面にサッサと向われるのでこれは奈良電廻りで帰られると考え、気になるのもそれとなくあとから見送りについていくと、それがどうも気に入らぬらしい気配なので、店の者と引返したことがある。まだまだお前達の厄介にならぬという持ち前の強気が晩年にも溢れ元気だつたのに……。

また戦時中のあるとき、珍らしく京都で「三寸里会」を開き、スキをやつたが、先生の鍋はよくたけてなかなか勢がよく、その卓子の者は盛にやつている。よくみると誰か先生のため蜜を持参、内緒でチョコビチョコビいれている。吾々の卓子は甘味はない、皆醤油だけでカラいばかりで、なかなか箸が運ばぬ。浅海君どうした、ハア少々腹具合が……、ア……、君それは栄養失調だよ、今日は大いにやり給え……云々。あの時は皆ツラかつたね。からいすぎ焼だつたよ。

▶佐伯与之吉氏(終身会員、丸金醤油会長)

清水組施工で三十四銀行のとき、僕が27.8才で月給たしか27円位、現場主任だつた。ある日先生が「お前三十四銀行の監督やめよ、君がいつてると僕が後から手直しなんかさせるわけにいかん。お前はそ代り奈良ホテルの現場にゆき大いに勉強せよ」といわれた。なお「面白いでないか、お前これからヒゲを生やせ、現場の主任とか監督は少々威厳がなくちやいかん」云々。それから僕は一生懸命ヒゲの養生につとめたが、渡君のように僕はヒゲが生えぬ、葉をぬるやら大変苦労したよ。それからズツ今日に続いているのがこのヒゲだ。貧弱だが、これは、いわば先生の記念のヒゲともいふべきものだよ……。

▶片岡夫人

カイゼルヒゲとか何とかいつて先をひねつてまして変でしたネ……。すきやきは自慢の一つで水をいれずよくやつてました。自分で鍋の世話をし人におすすめていました。

▶松尾岩雄氏

平素健康に留意され、あの大同ビル6階事務所には殆ど階段を歩いて上下されていた。「君運動ダヨ、歩き給

え」と先にドンドン上られ、私などホーホーの体でついて上つたものです。

また時間がやかましく私の方の重役会など時間には一分も変わらず正確に来られ、うちの者がおくと、「君らは時間の観念が乏しくてイカン……」それから皆キチンと時間に揃つてたが、先生亡き後、この頃はまた大阪時間になつてしまつた。

また倒れられた日の昼は私共と食事をしたのですが、ケンタン家の先生が一向召し上らず、ドーかされましたか……「イヤ今日は朝がおそくてね……云々……。帰られた後で倒れられたと承り、一時その時の食物が悪いのではなかつたかと恐縮したのですが……。

▶片岡夫人

あの日は5時頃帰ると出ましたので心準備していると少し早目に帰りましたので、台所にいつて用意しておりますと、孫がオチー様が大変だといいますので、食堂へかけつけますと、一寸吐いたようで苦しうでした。それから騒ぎとなり、大変皆様に御世話になりました。

平素は宅でも朝早く起き御陵さん附近まで殆ど毎日かけるようにして散歩していました。「私が病気になる運動不足だ、モット運動せよ」とよくいわれたものです。今林、渡、古賀、平島、有田、増田、境外各氏

健康はやかましかつた。「君日本刀を知つてるか」とよくいわれたね。日本刀は油をひき常に手入れしていつでも役立つよう平素から手入するのだ。ほつとしたら錆びるよ。人間も健康時に注意するものだ。病気になつて医者に行くのはおそい云々……。先生自身も日生病院に毎月健康診断をうけられていたが……。

かような次第で一寸風邪ぐらいの病気には同情というよりむしろ不注意したろうとおこられの体だつたね……以下省略。

文責記者(要領筆記でお話の全意を十分表現出来なかつた事をお許し願います)

株式会社 奥村重兵衛商店 大阪市北区木幡町三番地 電話 堀川 四一〇一七番 一〇一七番	合理的工法・責任施工	防錆完全・中空防音	耐震・耐火・軽量・堅牢	採用下さい	は日進式を御	を・軽量鉄骨	に・軽量鉄骨	間仕切・天井

昭和30年度各委員会委員氏名

5月17日の理事会で下記の通り昭和30年度各委員会委員委嘱を決定しましたので、ここに御氏名を掲載致します。

(順不同・敬称略)

会勢委員会

委員長 藤木正一
委員 矢野豊作
同 岡本弘
同 岩崎甚太郎
同 政岡基次
同 小川正
同 長野三郎
同 豊島芳雄
同 鳥野民男
同 広瀬幸一
同 佐々木新一
同 高橋慶夫
同 竹内孝
同 宮野守
同 立花量吉
同 若木望太郎
同 高橋末吉
同 山田文次
同 青木友一
同 田中良太郎
同 長尾勝馬
同 竹内成夫
同 増井敏克
同 藤原巧
同 山内茂
同 中務源一
同 羽田良顕
同 岡村博己
同 三品哲夫
同 山本茂

編集委員会

委員長 浦辺鎮太郎
委員 小栗賛吾
同 栗原信虎
同 小早川美武

同 宮飼克二
同 伊藤幸一
同 須賀栄一
同 西山卯三
同 小泉昇
同 伴潔
同 堀口甚吉
同 川名吉衛門
同 光安義光
同 立花勝利
同 彦谷邦一
同 増田幸次郎
同 山根正次郎

法規委員会

委員長 中沢誠一郎
委員 島田儀
同 五百蔵芳明
同 駒敬三
同 山田忠顕
同 工藤寿男
同 竹口信夫
同 森川喜代之助
同 佐々木保
同 佐々木新一
同 大塚隆
同 福山良三
同 七尾健三

住宅委員会

委員長 中野順次郎
委員 足立孝
同 上林博雄
同 白木小三郎
同 鳥田家弘
同 赤松脩
同 今西茂雄
同 三木栄逸

同 宮脇和正
同 竹内さく
同 寺井一勇
同 西山卯三
同 飯田精次郎
同 岡橋作太郎
同 片山光生
同 尾亀清四郎
同 西沢文隆
同 金剛年孝

出版委員会

委員長 奥島正一
委員 谷口尚武
同 駒敬三
同 西島勇
同 竹内孝
同 徳永正三
同 伊藤幸一
同 林野全孝
同 羽藤文雄
同 池田達雄
同 須賀豊治郎
同 豊島芳雄
同 増井敬
同 横尾義貫

災害委員会

委員長 横尾義貫
委員 馬場義雄
同 川名吉衛門
同 竹口信夫
同 棚座正信
同 桑山音吉
同 山田義行
同 中原茂
同 中村綱
同 赤井弘雄

同 村島彰
同 西脇秀太郎
同 須賀栄一

教育委員会

委員長 鷲尾健三
幹事 益尾辰雄
委員 伴潔
同 上林博雄
同 犬束徳郎
同 堀口甚吉
同 中野順次郎
同 相沢喜久太郎
同 渡部圭吾
同 岩崎甚太郎
同 笹川季男
同 寺岡真
同 石川純一郎
同 立花量吉

建材審査委員会

委員長 置塩章
副委員長 竹内成夫
委員 加藤宜彦
同 奥島正一
同 佐々木保
同 作間日出生
同 榑弘美
同 岡本弘
同 角田栄
同 菅田豊重
同 徳永正三
同 竹内孝
同 政岡基次
同 佐久間逸治
同 若木望太郎
同 日野勝好
同 布施忠司
同 池田達雄

理 事 会

17日 4時半—6時 於朝日ビル

竹腰会長伊東副会長外14名 鷺尾監事, 事務局2名出席

議事 (1)各委員会委員委嘱に関する件は主記主計会審議案の通り決定 (2)建材審査料改正に関する件は原案通り決定 (3)万国慰霊塔設計懸賞募集に関する件は依頼者の奉賛会についてなおよく調査することに決定 (4)事務局給与規程改正に関する件は原案の通り改正に決定 (5)府商工奨励館建築金物審査員推薦事後承認の件は推薦委員2氏を承認 (6)戸川書記停年到来に関する件は停年到達後退職のことに決定 (7)入退会者詮衡の件 (8)府立能研色彩管理委員会派遣委員に関する件は直に派遣打ち切りをしないことに決定 (9)事業報告の後予て会計監査を依頼しておいた住友信託銀行からの監査報告書と、昭和29年度の収支決算、財産目録、貸借対照表および事業報告書を提出し、理事会の承認議決を得た。なお議事中、会館問題、広告看板に関する都市美観問題、関東方面への会勢発展策などについて、種々意見が交わされた。

主記主計会

17日 3時—4時半 於朝日ビル

浅海理事外9名 事務局2名出席

理事会えの上提議案について一同予備審議を行った。

電気部会

19日 3時半—5時 於電気クラブ

浅海氏外11名 尾崎竹内横尾各理事 事務局3名出席

尾崎理事から本会開会の主旨について挨拶があり、横尾理事協会の事業と電気事業者との関係について所感を述べた後懇談に入り、活発な意見が交わされた。将来法規が改正されて電気工事人の資格制限が厳重になると、協会に於て講習会を催す必要が起る。建築家と附帯施設業者は、相互相手の領域に対する認識が低いので、啓蒙のため、相互を対照にした講演会などを催すが良い。電気事業者として、建築家やその外他業種の方との懇談の機会をできるだけ設けて貰いたい。火災の原因が多く漏電に帰せられる傾があるが、この問題を災害委員会に於て取り上げ研究したい。建築物の電気配線についての健康診断の必要性を一般に知らせ、これが診断に協会が当たたらどうか。電気事業者に於ても、専用の工事請負契約書を作成する必要がある。電気事業者の協会加入者の少いのは遺憾である、事務局の努力を望む。等々のことが一応結論づけられた。なお部会幹事長として浅海氏を選任し、幹事2名を追って幹事長の手許に於て選任することとなった。

会勢委員会

24日 3時—5時 於大阪建設会館

矢野委員外11名 事務局2名出席

議事 (1)委員長幹事選出の件、委員長に藤木前委員長の重任を願うこととし、委員長長支障あるときは矢野委員が代理すること、なお小委員会を設けるので幹事はこれを設けないこととし、小委員は迫て委員長手許に於て選任することに決定 (2)昭和30年度事業企画に関する件は会員に魅力ある事業を行うべきであるとして種々討議された (3)会員グループに関する件は小委員会案を承認、次回理事会に提案することに決定 (4)会員増加運動推進に関する件は種々論議されたが、具体案の決定をみなかつた (5)小委員会の経過報告を常務理事より行つた。

同小委員会

16日 5時半—7時 於朝日ビル

田中主査外2名 事務局3名出席

梅田ビル見学会の後で開催予定の同座談会の進め方について、竹中工務店小川設計部長を招いて、種々懇談審議した。

教育委員会

30日 3時半—5時 於朝日ビル

鷺尾委員外9名 事務局2名出席

議事 (1)委員長幹事選出の件は、委員長に鷺尾健三氏の重任、幹事に益尾辰雄氏を決定した (2)昭和30年度事業企画に関する件は (3)の昨年度委員会よりの申送り事項の件と関連あるを以て、先づ申送り事項を審議するため、常務理事および提案者から各々説明をなした後審議した結果 (イ)コンクリート技能講座の件は講師打合せ会の実施案を承認の上横尾氏に主査を委嘱して実施に決定 (ロ)設計コントロールの件 (ハ)工高生の設計審査の件は一括して、寺岡委員に主査を (ニ)学校に於ける施工技術教育強化の件は渡部委員に主査を (ホ)建築計画の講習会の件は田中良太郎氏に主査を各委嘱して夫々小委員会を作り、小委員会に於て検討の結果を、次回委員会に報告することに決定した。

同コンクリート技能講座講師打合せ

26日 3時半—5時 於朝日ビル

奥島、益尾、菅田、谷口、金子各講師 事務局2名出席

講習会の日時その他実施に関するについて協議決定した。なおスライドについても打合せを了した。

片岡前会長追悼会と午餐会

26日 11時—2時 於今橋クラブ

追悼会 片岡前会長逝いて十年、門下縁故者からなる三寸里会の協力を得、協会主催で、御遺族嗣子鈴木太郎氏、盈衛子未亡人にも御列席戴いて、御命日の本日をとし神式により追悼会を催した。5階広間正面に金屏風を背に祭壇を設けて御遺影を飾り、三寸里会、K I会、八木工

務店からの御供物を傍に供えた。11時半参列者一同会場に着席、追悼会は御霊神社宮司の斎主で厳粛に執り行われた。祭主竹腰会長は、前会長御逝去後の会の歩みを述べて会勢発展の次第と、前会長畢生の御念願であつた建築基準法の施行や戦災都大阪復興に協会会員の果たした役割を報告し、なお協会発展のためにこの上の加護を垂れ賜わんことを願ひて追悼の辞を述べられた。次いで会長、鈴木太郎氏、末亡人、三寸里代表、K I 会代表の玉串奉奠があつて12時終了したが前会長を偲んで参列された方々73名に上つた。

午餐会 追悼会に引き続き同所で午餐会を催した。一同御神酒を戴いた後会食、デザートコースに入り会長立つて挨拶の辞を述べ、更に前会長の功績を讃えて参会者からの追憶談をお願いした。前会長門下で最も縁故の深い佐伯与吉氏の指名により、白杉嘉明三氏、銭高久吉氏、松尾岩雄氏、今林彦太郎氏、松本儀八氏、有田桂太氏、滝沢真弓氏、井上福蔵氏から夫々思い出深い追憶の数々が語られ、次いで健康上本日己むを得ず欠席された波江悌夫氏から特に送つてこられた追憶の一篇と、石本喜久治氏からの追悼電の披露があつて2時散会した。会する者64名。

若い会員の声を聴く会

2日 2時—5時 於朝日ビル

田中、政岡会勢委員会外会員6名 事務局3名出席
会勢委員会の事業企画に資するため、若い会員層の協会に対する意見、希望などを聞くべく、会勢小委員会の主催で催した。相憎支障者多く、出席者は予定数の半であつたが、仲々活発な意見の交換が行われた。学会と協会の比軽論から、協会は会員に魅力ある事業を行う必要のあること、建材或は法規などに関する種々の会、見学会、設計の募集などの事業について各自から夫々意見の発表があつた。なお会員グループ新設についても意見が交わされたが、今後事業企画について、若い人々にもこれに参画して戴くこととなつた。

見学会と座談会

ヤンマーディーゼルKK神崎工場見学会

12日 2時半—5時 参加者80名

大阪建設業協会との共催で行つた。同社差し廻わしのバスで工場に到着、河田販売部長、田中工場長から同社製作に係るディーゼル機関全般に関する説明並に当工場に於ける製作状況や使用工作機械などについてお話を承つた。4班に分れて工場の見学をしたが、電気焼入れ工場、流れ作業による製作工場、機関検査場、鋳物工場など一巡見学を済ませば、平素無造作に取扱っている機関についてもまた認識を新にする処があり、精巧な工作機械の工作状況には嘆服の声が洩れる。見学が終つて一同先刻の説明会場で質疑応答や同社使用の磨耗度の少いN 鋳鋼の説明などを伺い、麦酒の饗応に預つて、常務理事

の会社に対する謝辞を最後に見学会を終り、また御好意のバスで帰路についた。

梅田ビル見学会と同座談会 参加者 150名

28日 1時半—4時半

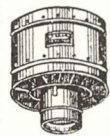
見学会

大阪駅頭に竹中工務店の設計施工で新装なつた同建物は、斬新な設計、明るい落着いた色彩、新しい設備などで一般の注目を浴びていたが、竹中工務店の御好意で、見学会同所で同建物についての座談会を催すという初の試み興味を惹いてか、本見学会は、近來稀な多数の参加者をみた。一同屋上で、木曾現場主任から、潜函工法の改良された点、二重鉄管を使用した基礎杭工事その他一般工事概要について、また設備担当者の鈴木氏から、冷却塔その他の特殊設備についての説明を承つた。8班に分れて案内に従ひ順次館内を見学したが、殺菌灯を設備した冷却塔、総ての設備機械の運転状況がわかり、且一人でコントロールができる操作台を備えた地階の操作室などの新設備、光電管その他照明関係、パイプシャッターなどの新装置、ハンチ無しの大梁エレベーターのシル、茶殻シュートなどに対する考慮など、非常に特長に富んだ建物で、仕上も美事で見学者一同頗る得る処があつた。

座談会

見学会終了後約90名の参加者が3階の会場に集つて座談会を開いた。先づ、田中会勢委員会主査が、本座談会開催の趣旨を述べて挨拶した後、市大滝沢教授が司会者となつて始められたが、竹中工務店より出席の小川設計部長、木曾主任外関係者の方々と見学者との間で、質疑応答や意見の交換があり、本建物に関する問題ばかりでなく、大阪駅頭に於ける建築物は如何にあるべきかの問題や、最近非常に多量に使われる傾向にある硝子の問題に関してなど一般論についても活発に意見が交わされて、約1時間興味ある座談会が続けられた。

特許第一五三六号



カクログ
進呈

製造販売

＝特許＝

氣光式通風器

南閉式レヂスター

大阪市西区江戸堀下通2ノ17

田辺工業株式会社

電話土 佐堀437437—9

建築と社会
第36輯・第6号

発行所 社団法人 日本建築協会 大阪市北区中ノ島3ノ3朝日ビル
電話 北浜 ㊤ 1334~9 番
編集発行人 沖 田 誠 一 振替口座 大阪 39975 番

売価 1部100円・送料共
昭和30年5月25日印刷
昭和30年6月1日発行

印刷所 株式会社 研 文 社 大阪市北区堂山町66
電話 豊崎 ㊤ 2056 番
印刷者 網 野 栄 大阪市北区堂山町66

編 集 後 記

本号は「青年建築家特集号」として、昨年6月号の第1回の青年建築家特集に引続いて企画した。第1回の試みにおいては、多少の批判があつた、「レベルが低いものもあり、高いものもあり足並が揃わなかつた」と…。今回は大いに作家・作品共厳選したつもりである。ここに選ばれた青年建築家に敬意を表します。またその推薦者に厚く感謝します。

この特集号は、今後毎年6月号を期して繰返していきたい。そして第1期・第2期……とその氏名・作品を再録していきたいと思つている。

諸兄の御意見を期待します。

次 号 予 告

7月号は「国際号」として、カナダ建築協会に送つた日本建築の紹介文、およびフイリツピンへ送つた村野、前川両氏の評伝・作品を紹介します。他にも多数あり。

昭和30年度編集委員（敬称略）

（委員長）

浦 辺 鎮 太 郎（倉敷レイヨンKK営繕部長）
伊 藤 幸 一（清水建設KK大阪支店設計部）
小 栗 賛 吾（清水建設KK大阪支店長）
川 名 吉 衛 門（大阪市大理工学部中沢研究室）
栗 原 信 虎（栗原工業株式会社社長）
小 泉 昇（竹中工務店設計部）
小 早 川 美 武（亀井株式会社取締役社長）
須 賀 栄 一（須賀工業株式会社営業部長）
菅 田 豊 重（株式会社大林組研究室）
竹 内 成 夫（大阪府建築部営繕課長）
立 花 勝 利（レイモンド建築事務所大阪連絡所所長）
波 江 貞 夫（国鉄大阪工事事務所建築課長）
西 山 卯 三（京都大学工学部助教授）
伴 潔（神戸大学工学部教授）
彦 谷 邦 一（山下寿郎建築事務所）
堀 口 甚 吉（大阪工業大学講師）
増 井 敏 克（大阪市建築局主管）
増 田 幸 次 郎（大阪市港湾局建築係長）
光 安 義 光（兵庫県住宅課）
南 長 吉（齊久工業株式会社大阪支店長）
宮 飼 克 二（宮飼建築事務所所長）
山 根 正 次 郎（日建設計工務KK計画室長）

杭

特 許

— 武智式鉄筋混凝土杭基礎工 —
— 日信三角型鉄筋混凝土杭基礎工 —
— コンボジット、パイル（長尺継杭）基礎工 —
測量・地質調査・地耐力測定施工

特 長 砂利充填による特殊施工法
支持力強大。工事迅速。工費低廉

株式会社 武 智 工 務 所

説明書及び防潮
高上、盛土地帯
に於ける実蹟表
進呈

取締役社長 福 留 並 喜

大阪市西区西長崎北通四丁目一〇 細野ビル三六号
電話 新町 ㊤ 九九五~九九八

廣 告 目 次

(50 音 順)

建 築 と 社 会 Vol. 36 No. 6

INDEX TO ADVERTISING

浅海電気産業株式会社	43	大正鉄筋コンクリート株式会社	48
伊奈製陶株式会社	33	大新物産株式会社	54
今西デザインルーム	48	大日特殊建材工業所	48
株式会社岩住鉄工所	44	大日本硝子工業株式会社	51
岩元工業株式会社	44	大仏組	47
株式会社荏原製作所	表紙 4	高砂熱学工業株式会社	43
株式会社栄興商会	2	株式会社武智工務所	40
オリエンタルメタル製造株式会社	34	株式会社立花商会	43
大阪建材工業株式会社	55	株式会社谷山鉄工所	47
大阪コンベス建材社	45	玉置産業株式会社	55
株式会社大阪城口研究所	42	中央電気工業株式会社	43
大阪耐火ボード株式会社	46	朝陽電気株式会社	43
株式会社大阪電気暖房商会	42	東京鋼板工業株式会社	48
大島応用化学工業株式会社	45	東 邦 商 会	51
株式会社奥村重兵衛商店	32	東洋キャリア工業株式会社	43
奥山化工業株式会社	55	東洋陶器株式会社	34
織本特殊構造研究所	48	東洋リノリウム株式会社	1
檜野石灰工業株式会社	45	ナニワ瓦株式会社	47
株式会社川岸窯業	47	内外工業株式会社	49
関西機械建材社	56	内外土木建材社	44
株式会社木下謹三商店	表紙 3	中川ラス製作所	45
近畿電気工事株式会社	43	浪速建材工業株式会社	54
工藤電気株式会社	43	日本金具製作所	56
株式会社久保商店	41	株式会社日本シャッター製作所	9
株式会社ケントク	表紙 3	株式会社日本セメント防水剤製造所	表紙 3
株式会社建材社	42	日本ドアアーチェック製造株式会社	36
株式会社工英社	表紙 2	日本ペイント株式会社	49
株式会社金剛商会	55	株式会社西原衛生工業所	42
斎久工業株式会社	42	株式会社野上工業所	43
株式会社斎藤省三商店	42	株式会社林塗装店	47
三機工業株式会社	42	合資会社汎建製作所	49
株式会社三幸商会	46	株式会社日立製作所	表紙 2
株式会社三晃商会	42	福昌株式会社	44
新日本電気株式会社	35	福屋工業株式会社	45
須賀工業株式会社	36 : 42	株式会社三高製作所	46
株式会社鈴木シャタア商会	46	三舟窯業大阪営業所	47
杉田組協栄株式会社	47	三星タイル会	50
セメダイン株式会社	1	株式会社室谷商店	46
正 興 商 会	48	明青工業写真株式会社	47
田島応用化工株式会社	表紙 4	株式会社山本建材社	35
田中工業株式会社	41	油 脂 化 工 社	表紙 3
田中風呂製作所	45	株式会社吉田芳雄商店	47
田辺工業株式会社	39	株式会社淀川製鋼所	2
田村商会建材部	46	株式会社ライト製作所	41
		理研鋼機株式会社	43